

事 務 連 絡
令和4年3月31日

各都道府県教育委員会指導事務主管課
各指定都市教育委員会指導事務主管課
各都道府県私立学校主管部課
附属学校を置く各国公立大学法人担当課 御中
構造改革特別区域法第12条第1項の
認定を受けた各地方公共団体の主管部課
各国公私立大学入試事務主管部課

文 部 科 学 省 大 臣 官 房 国 際 課
文部科学省初等中等教育局教育課程課
文部科学省高等教育局大学振興課

国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目における高等学校学習指導
要領の内容事項等の取扱いについて（対応関係表の送付及び別添の訂正）

「国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目における高等学校学習指導要領の内容
事項等の取扱いについて」（令和3年12月28日付け事務連絡。以下「令和3年事務連絡」
という。）において、別途事務連絡において示すこととしていた、文部科学省委託事業とし
て実施している文部科学省IB教育推進コンソーシアムに設置された「学習指導要領-IBカ
リキュラムの読替えに係る作業部会」の調査を踏まえた、高等学校学習指導要領の記載事項
と、それに対応する国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの指導の手引き等、国際バカ
ロレア機構から発行されている指導のための文書の記載事項を掲載した表（以下「対応関係
表」という。）について、別紙のとおり送付します。

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校等におかれては、教育課程の編成に際し
て参考としていただきますようお願いします。

また、対応関係表に関する留意事項等は下記1のとおりですので、十分に御了知の上、適
切に御対応いただくようお願いします。

加えて、令和3年事務連絡において、別添中Ⅱの記載の一部に誤りがございましたので、
下記2のとおり訂正します。令和4年度以降の各学校における教育課程の編成・実施に当た
って、御不便をおかけしていることについてお詫び申し上げます。

本事務連絡が国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校である高等学校（中等教育

学校の後期課程を含む。以下同じ。)を対象としていることを踏まえ、各都道府県教育委員会におかれては、所管の高等学校及び域内の高等学校を所管する指定都市を除く市町村教育委員会に対して、各指定都市教育委員会におかれては所管の高等学校に対して、各都道府県及び構造改革特別区域法（平成14年法律第189号）第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体におかれては、所轄の高等学校及び学校法人等に対して、附属学校を置く各国公立大学におかれては、その管下の高等学校に対して、このことを周知くださるようお願いいたします。

記

1 対応関係表について

- (1) 対応関係表は、別添中Ⅰ・Ⅱに掲げる教科・科目等について、左欄に高等学校学習指導要領（平成30年文部科学省告示第68号。以下同じ。）の関連する内容を示し、右欄に、それに対応する国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの指導の手引き等、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの指導のための文書の記載項目を引用したものであること。
- (2) 各学校における教育課程の編成に際しては、対応関係表とともに、高等学校学習指導要領及び国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの指導のための文書を参照されたいこと。
- (3) 国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目と高等学校学習指導要領の教科・科目等には、令和3年事務連絡において示した、高等学校学習指導要領の内容事項等についての対応すべき追加的事項・留意事項を踏まえたうえで、対応関係が認められるため、各学校における教育課程の編成に際しては、別紙を参考にされたいこと。

2 令和3年事務連絡別添の訂正について

令和3年事務連絡別添中Ⅱの記載の一部に誤りがあったため、下記のとおり訂正すること。訂正後の対応関係については、本事務連絡の別添のとおりであり、差し替えいただきたいこと。

記載箇所	正	誤
別添中Ⅱの左欄	フィジックス	フィジックスHL
	ケミストリー	ケミストリーHL
	バイオロジー	バイオロジーHL

本件担当：

(国際バカロレアの推進及び文部科学省 I B 教育推進コンソーシアムについて)

文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室

電話 03-5253-4111 (内線3222)

(学習指導要領に関することについて)

文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室

電話 03-5253-4111 (内線2368)

(大学入学者選抜における対応について)

文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室

電話 03-5253-4111 (内線2495)

国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目と高等学校学習指導要領の教科・科目等との対応関係について

I	ランゲージA:ランゲージ・アンド・リタラチャー	現代の国語、言語文化	○新告示(※)第1号により、新告示第2号の基準を満たしている場合、左欄に掲げる国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の履修及び単位の修得をもって、右欄に掲げる高等学校学習指導要領の必履修教科・科目等の履修及び単位の修得をしたものとみなすことができる。その際、修得したものとみなすことができる単位数は、高等学校学習指導要領に規定する標準単位数以下の単位数に限る。 ○大学入学者選抜においては、左欄に掲げる国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の単位の修得をもって、右欄に掲げる高等学校学習指導要領の必履修教科・科目等の単位の修得をしたものとみなすこと。
	ランゲージA:リタラチャー	言語文化	
	ジオグラフィー	地理総合	
	ヒストリー	歴史総合	
	マセマティックス:アナリシス・アンド・アプローチズ	数学Ⅰ	
	マセマティックス:アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション	数学Ⅰ	
	フィジックス	物理基礎	
	ケミストリー	化学基礎	
	バイオロジー	生物基礎	
	ミュージック	音楽Ⅰ	
	ヴィジュアル・アーツ	美術Ⅰ	
	ランゲージB	英語コミュニケーションⅠ	
	セオリー・オブ・ナレッジ	総合的な探究の時間	

II	ランゲージA:ランゲージ・アンド・リタラチャーSL	論理国語、文学国語、国語表現	○左欄に掲げる国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目と右欄に掲げる高等学校学習指導要領の教科・科目には対応関係が認められる。 ○新告示第3号により、学校設定教科・科目として設定した国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目について修得した単位数は、合わせて36単位を超えない範囲で卒業に必要な単位数のうちに加えることができる。 ○大学入学者選抜においては、左欄に掲げる国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の単位の修得をもって、右欄に掲げる高等学校学習指導要領の教科・科目の単位の修得と代替しているものとするなど、各大学において適切に判断されたい。
	ランゲージA:ランゲージ・アンド・リタラチャーHL	論理国語、文学国語、国語表現、古典探究	
	ランゲージA:リタラチャー	論理国語、文学国語、国語表現、古典探究	
	ジオグラフィー	地理探究	
	ヒストリー	日本史探究、世界史探究	
	エコノミクス	政治・経済	
	マセマティックス:アナリシス・アンド・アプローチズSL	数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B	
	マセマティックス:アナリシス・アンド・アプローチズHL	数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C	
	マセマティックス:アプリケーションズ・アンド・インタープリテーションSL	数学Ⅱ、数学A、数学B	
	マセマティックス:アプリケーションズ・アンド・インタープリテーションHL	数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C	
	フィジックス	物理	
	ケミストリー	化学	
	バイオロジー	生物	
	ミュージック	音楽Ⅱ、音楽Ⅲ	
	ヴィジュアル・アーツ	美術Ⅱ、美術Ⅲ	
	ランゲージB	英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ	

III	I又はIIに該当しない国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目と高等学校学習指導要領の教科・科目	○高等学校学習指導要領の教科・科目との対応関係を求める場合、教育課程特例校制度を活用して、高等学校学習指導要領の内容事項等が適切に取り扱われた新科目を設置すること。なお、教育課程特例校制度を活用して、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ランゲージA:リタラチャー」と高等学校学習指導要領「現代の国語」の対応関係を求める際の留意事項等については、別紙を参照されたい。 ○新告示第3号により、学校設定教科・科目として設定した国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目について修得した単位数は、合わせて36単位を超えない範囲で卒業に必要な単位数のうちに加えることができる。
-----	--	---

(※)「国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校における教育課程の基準の特例の一部を改正する告示」(令和3年文部科学省告示第202号)による改正後の「国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校における教育課程の基準の特例」(平成27年文部科学省告示第127号)

学習指導要領「国語」－IB「ランゲージ A：ランゲージ・アンド・リタラチャー」対応関係表

(0) 教科「国語」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2)生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3)言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
指導計画の作成 (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。 (2)「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」及び「古典探究」の各科目については、原則として、「現代の国語」及び「言語文化」を履修した後に履修させること。 (3)各科目の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とすること。 (4)「現代の国語」及び「言語文化」の指導については、中学校国語科との関連を十分に考慮すること。 (5)言語能力の向上を図る観点から、外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。 (6)障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。	「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」指導の方法 ○DP のすべての教師が「言語の教師」である ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)各科目の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、日常の言語活動を振り返ることなどを通して、生徒が、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。 (2)生徒の読書意欲を喚起し、読書の幅を一層広げ、読書の習慣を養うとともに、文字・活字文化に対する理解が深まるようにすること。 (3)生徒がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。 (4)学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と TOK ・「言語と文学」と CAS 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 ○学習のアプローチ (ATL) ・リサーチスキル

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	3 教材については、各科目の 3 に示す事項のほか、次の事項に留意するものとする。 (1) 教材は、各科目の内容の〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度を育成することをねらいとし、生徒の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、必要に応じて音声言語や画像による教材を用い、学習の効果を高めるようにすること。 (2) 「論理国語」及び「国語表現」は、「現代の国語」の 3 の (4) のウに示す事項について、「文学国語」は「言語文化」の 3 の (4) のエに示す事項について、「古典探究」は「言語文化」の 3 の (4) のイ及びオに示す事項について留意すること。	—

(1)「現代の国語」－「ランゲージ A：ランゲージ・アンド・リタラチャー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第1の1)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
内容 (第2款第1の2)	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (3)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と TOK ・「言語と文学」と CAS シラバスの内容 ○探究領域一作者、読者、テキスト ○言語スキルの発達 ・産出スキル 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 ○学習のアプローチ (ATL) ・思考スキル ・リサーチスキル ディプロマプログラム (DP) とは ○学問的誠実性 ○出典を明らかにする

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと (1)話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 B 書くこと (1)書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 C 読むこと (1)読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・受容スキル ・産出スキル ・やりとりのスキル ○概念的理解 ・「言語と文学」のコースにおける概念的理解 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・効果的なチームワークと協働に重点を置いた指導 ○学習のアプローチ (ATL) ・思考スキル ・コミュニケーションスキル ・社会性スキル ・リサーチスキル
内容の取扱い (第2款第1の3)	(1)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の〔知識及び技能〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (3)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (4)教材については、次の事項に留意するものとする。	(参考)「言語 A」教師用参考資料 指定作品リスト (PRL : Predicted Reading List) ○作家と作品の選択

(2)「言語文化」－「ランゲージ A：ランゲージ・アンド・リタラチャー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第2の1)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
内容 (第2款第2の2)	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と CAS ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○「言語と文学」の学習のモデル ・生徒が「言語 A：言語と文学」のコースで学ぶこと ○探究領域－時間と空間 ○探究領域－テキスト間相互関連性：テキストをつなげる 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 書くこと (1)書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 B 読むこと (1)読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○探究領域―読者、作者、テキスト ○探究領域―時間と空間 ○探究領域―テキスト間相互関連性：テキストをつなげる ○言語スキルの発達 ・受容スキル ・産出スキル ○概念的理解 ・「言語と文学」のコースにおける概念的理解 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 ・効果的なチームワークと協働に重点を置いた指導 ○学習のアプローチ（ATL） ・コミュニケーションスキル ・リサーチスキル
内容の取扱い (第2款第2の3)	(1)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の〔知識及び技能〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (3)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (4)教材については、次の事項に留意するものとする。	「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・学習の障壁を取り除くように考えられた指導 (参考)「言語 A」教師用参考資料 指定作品リスト（PRL：Predicted Reading List） ○作家と作品の選択

(3)「論理国語」－「ランゲージ A：ランゲージ・アンド・リタラチャー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第3の1)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
内容 (第2款第3の2)	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (3)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	評価目標 ・分析と評価 「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と TOK ・「言語と文学」と CAS シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・産出スキル ○概念的理解 ・「言語と文学」のコースにおける概念的理解 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 書くこと (1)書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 B 読むこと (1)読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・受容スキル ・産出スキル ○概念的理解 ・「言語と文学」のコースにおける概念的理解 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 ・概念理解に重点を置いた指導 ・効果的なチームワークに重点を置いた指導 ○学習のアプローチ（ATL） ・思考スキル ・コミュニケーションスキル ・社会性スキル ・リサーチスキル
内容の取扱い (第3款第3の3)	(1)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (3)教材については、次の事項に留意するものとする。	(参考)「言語 A」教師用参考資料 指定作品リスト（PRL：Predicted Reading List） ○作家と作品の選択

(4)「文学国語」－「ランゲージ A：ランゲージ・アンド・リタラチャー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第4の1)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
内容 (第2款第4の2)	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と CAS ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○探究領域一作者、読者、テキスト 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 書くこと (1)書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 B 読むこと (1)読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・受容スキル ・産出スキル ○探究領域—作者、読者、テキスト ○探究領域—テキスト間相互関連性：テキストをつなげる ○概念的理解 ・「言語と文学」のコースにおける概念的理解 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 ・概念理解に重点を置いた指導 ・効果的なチームワークと協働に重点をおいた指導 ○学習のアプローチ（ATL） ・コミュニケーションスキル ・社会性スキル ・リサーチスキル
内容の取扱い (第2款第4の3)	(1)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (3)教材については、次の事項に留意するものとする。	シラバスの内容 ○文学作品の選択 （参考）「言語 A」教師用参考資料 指定作品リスト（PRL：Predicted Reading List） ○作家と作品の選択

(5)「国語表現」－「ランゲージ A：ランゲージ・アンド・リタラチャー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第5の1)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
内容 (第2款第5の2)	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と CAS ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・産出スキル ・やりとりのスキル ○探究領域一作者、読者、テキスト 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと (1)話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 B 書くこと (1)書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・やりとりのスキル ○概念的理解 ・「言語と文学」のコースにおける概念的理解 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・概念理解に重点を置いた指導 ・効果的なチームワークと協働に重点をおいた指導 ○学習のアプローチ（ATL） ・思考スキル ・コミュニケーションスキル ・社会性スキル ・リサーチスキル
内容の取扱い (第 2 款第 5 の 3)	(1)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (3)教材については、次の事項に留意するものとする。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○DP における「言語と文学」の学習 シラバスの内容 ○「言語と文学」の学習モデル ・生徒が「言語 A：言語と文学」のコースで学ぶこと 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・学習の障壁を取り除くように考えられた指導 (参考)「言語 A」教師用参考資料 指定作品リスト（PRL：Predicted Reading List） ○作家と作品の選択

(6)「古典探究」―「ランゲージ A：ランゲージ・アンド・リタラチャー」(HL のみ)

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第6の1)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
内容 (第2款第6の2)	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と CAS シラバスの内容 ○探究領域―時間と空間 ○探究領域―作者、読者、テキスト ○探究領域―テキスト間相互関連性：テキストをつなげる 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導
	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 読むこと (1)読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・受容スキル ・産出スキル 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 ○学習のアプローチ (ATL) ・思考スキル ・コミュニケーションスキル ・リサーチスキル

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
内容の取扱い (第2款第6の3)	(1)内容の〔知識及び技能〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 読むこと」に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (3)教材については、次の事項に留意するものとする。	シラバスの内容 ○文学作品の選択 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・学習の障壁を取り除くように考えられた指導 (参考)「言語 A」教師用参考資料 指定作品リスト (PRL : Predicted Reading List) ○作家と作品の選択

学習指導要領「国語」－IB「ランゲージ A：リタラチャー」対応関係表

(0) 教科「国語」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2)生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3)言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
指導計画の作成 (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。 (2)「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」及び「古典探究」の各科目については、原則として、「現代の国語」及び「言語文化」を履修した後に履修させること。 (3)各科目の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とすること。 (4)「現代の国語」及び「言語文化」の指導については、中学校国語科との関連を十分に考慮すること。 (5)言語能力の向上を図る観点から、外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。	「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」指導の方法 ○DP のすべての教師が「言語の教師」である ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)各科目の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、日常の言語活動を振り返ることなどを通して、生徒が、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。 (2)生徒の読書意欲を喚起し、読書の幅を一層広げ、読書の習慣を養うとともに、文字・活字文化に対する理解が深まるようにすること。 (3)生徒がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。 (4)学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と TOK ・「言語と文学」と CAS 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 ○学習のアプローチ (ATL) ・リサーチスキル

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	3 教材については、各科目の 3 に示す事項のほか、次の事項に留意するものとする。 (1) 教材は、各科目の内容の〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度を育成することをねらいとし、生徒の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、必要に応じて音声言語や画像による教材を用い、学習の効果を高めるようにすること。 (2) 「論理国語」及び「国語表現」は、「現代の国語」の 3 の (4) のウに示す事項について、「文学国語」は「言語文化」の 3 の (4) のエに示す事項について、「古典探究」は「言語文化」の 3 の (4) のイ及びオに示す事項について留意すること。	—

(1)「言語文化」－「ランゲージ A：リタラチャー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第2の1)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
内容 (第2款第2の2)	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と CAS ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○「言語と文学」の学習モデル ・生徒が「言語 A：文学」のコースで学ぶこと ○探求領域 ・時間と空間 ・テキスト間相互関連性：テキストをつなげる 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 書くこと (1)書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 B 読むこと (1)読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・受容スキル ・産出スキル ○探究領域 ・時間と空間 ・テキスト間相互関連性：テキストをつなげる ○概念的理解 ・「言語と文学」のコースにおける概念的理解 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 ・効果的なチームワークと協働に重点をおいた指導 ○学習のアプローチ（ATL） ・コミュニケーションスキル ・リサーチスキル
内容の取扱い (第2款第2の3)	(1)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の〔知識及び技能〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (3)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (4)教材については、次の事項に留意するものとする。	「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・学習の障壁を取り除くように考えられた指導 (参考)「言語 A」教師用参考資料 指定作品リスト（PRL：Predicted Reading List）

(2)「論理国語」－「ランゲージA：リタラチャー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第3の1)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
内容 (第2款第3の2)	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (3)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	評価目標 ・分析と評価 「言語A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と TOK ・「言語と文学」と CAS シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・産出スキル ○概念的理解 ・「言語と文学」のコースにおける概念的理解 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 書くこと (1)書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 B 読むこと (1)読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・受容スキル ・産出スキル ○概念的理解 ・「言語と文学」のコースにおける概念的理解 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 ・概念理解に重点を置いた指導 ・効果的なチームワークと協働に重点をおいた指導 ○学習のアプローチ（ATL） ・思考スキル ・コミュニケーションスキル ・社会性スキル ・リサーチスキル
内容の取扱い (第2款第3の3)	(1)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (3)教材については、次の事項に留意するものとする。	シラバスの内容 ○コース要件

(3)「文学国語」－「ランゲージ A：リタラチャー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第4の1)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
内容 (第2款第4の2)	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と CAS ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○探究領域 ・読者、作者、テキスト 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 書くこと (1)書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 B 読むこと (1)読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○「言語と文学」の学習モデル ・生徒が「言語 A：文学」のコースで学ぶこと ○言語スキルの発達 ・受容スキル ・産出スキル ○探究領域 ・読者、作者、テキスト ・テキスト間相互関連性：テキストをつなげる ○概念的理解 ・「言語と文学」のコースにおける概念的理解 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 ・概念理解に重点を置いた指導 ・効果的なチームワークと協働に重点をおいた指導 ○学習のアプローチ（ATL） ・思考スキル ・コミュニケーションスキル ・社会性スキル ・リサーチスキル

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
内容の取扱い (第2款第4の3)	(1) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。 (2) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (3) 教材については、次の事項に留意するものとする。	シラバスの内容 ○コース要件 (参考)「言語 A」教師用参考資料 指定作品リスト (PRL : Predicted Reading List) ○作家と作品の選択

(4)「国語表現」－「ランゲージ A：リタラチャー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第5の1)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
内容 (第2款第5の2)	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と CAS ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・産出スキル ・やりとりのスキル ○探究領域 ・読者、作者、テキスト 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと (1)話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 B 書くこと (1)書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と国際的な視野 シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・やりとりのスキル ○概念的理解 ・「言語と文学」のコースにおける概念的理解 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・概念理解に重点を置いた指導 ・効果的なチームワークと協働に重点をおいた指導 ○学習のアプローチ（ATL） ・思考スキル ・コミュニケーションスキル ・社会性スキル ・リサーチスキル
内容の取扱い (第2款第5の3)	(1)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (3)教材については、次の事項に留意するものとする。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○DP における「言語と文学」の学習 シラバスの内容 ○「言語と文学」の学習モデル ・生徒が「言語 A：言語と文学」のコースで学ぶこと 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・学習の障壁を取り除くように考えられた指導 (参考)「言語 A」教師用参考資料 指定作品リスト（PRL：Predicted Reading List） ○作家と作品の選択

(5)「古典探究」－「ランゲージ A：リタラチャー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第6の1)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	ねらい ○「言語と文学」のねらい
内容 (第2款第6の2)	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	「言語 A：言語と文学」の学習 ○「言語と文学」と「コア」 ・「言語と文学」と CAS シラバスの内容 ○探究領域 ・読者、作者、テキスト ・時間と空間 ・テキスト間相互関連性：テキストをつなげる 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 読むこと (1)読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	シラバスの内容 ○言語スキルの発達 ・受容スキル ・産出スキル 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・探究を基盤とした指導 ○学習のアプローチ (ATL) ・思考スキル ・コミュニケーションスキル ・リサーチスキル
内容の取扱い (第2款第6の3)	(1)内容の〔知識及び技能〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 読むこと」に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 (3)教材については、次の事項に留意するものとする。	シラバスの内容 ○コース要件 「言語と文学」における「指導のアプローチ」と ATL ○「指導のアプローチ」 ・学習の障壁を取り除くように考えられた指導 ○学習のアプローチ (ATL) ・リサーチスキル (参考)「言語 A」教師用参考資料 指定作品リスト (PRL : Predicted Reading List) ○作家と作品の選択

学習指導要領「地理歴史」—IB「ヒストリー」対応関係表

(0) 教科「地理歴史」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	ねらい ○「個人と社会」(グループ3)のねらい
指導計画の作成 (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。 (2)地理歴史科の目標を達成するため、公民科などとの関連を図るとともに、地理歴史科に属する科目相互の関連に留意しながら、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに指導が偏らないようにすること。 (3)各科目の履修については、全ての生徒に履修させる科目である「地理総合」を履修した後に選択科目である「地理探究」を、同じく全ての生徒に履修させる科目である「歴史総合」を履修した後に選択科目である「日本史探究」、「世界史探究」を履修できるという、この教科の基本的な構造に留意し、各学校で創意工夫して適切な指導計画を作成すること。 (4)障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。	(参考)「歴史」教師用参考資料 ○指導の方法 ・探究を基本とした指導 ・概念に重点を置く指導 (参考)ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや構想したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視すること。 (2)調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図るようにすること。その際、地図や年表を読んだり作成したり、現代社会の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するに当たっては、関連する各種の統計、年鑑、白書、画像、新聞、読み物、その他の資料の出典などを確認し、その信頼性を踏まえつつ適切に活用したり、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにすること。 (3)社会的事象については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示するよう配慮し、多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益適切な教材に基づいて指導するとともに、特定の事柄を強調し過ぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げるものがないよう留意すること。 (4)情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにすること。その際、課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、情報モラルの指導にも留意すること。 3 内容の指導に当たっては、教育基本法第 14 条及び第 15 条の規定に基づき、適切に行うよう特に慎重に配慮して、政治及び宗教に関する教育を行うものとする。	ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ ○D Pの「歴史」で使用する主要概念の詳細 ・スキル (参考)「歴史」教師用参考資料 ○学習の方法 ・コミュニケーションスキル

(1)「歴史総合」－「ヒストリー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第3の1)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	ねらい ○「個人と社会」(グループ3)のねらい ○「歴史」のねらい	
内容 (第2款第3の2)	A 歴史と扉【内容の取扱い(2)イ】 (1)歴史と私たち (2)歴史の特質と資料	ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ ○D Pの「歴史」で使用する主要概念の詳細 ・スキル	
	B 近代化と私たち【内容の取扱い(2)ウ】 (1)近代化への問い C 国際秩序の変化や大衆化への問い【内容の取扱い(2)エ】 (1)国際秩序の変化や大衆化への問い D グローバル化と私たち【内容の取扱い(2)オ】 (1)グローバル化への問い	ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ ○D Pの「歴史」で使用する主要概念の詳細 ・スキル	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	B 近代化と私たち【内容の取扱い(2)ウ】 (2)結び付く世界と日本の開国 ア次のような知識を身に付けること。 (3)国民国家と明治維新 ア次のような知識を身に付けること。 C 国際秩序の変化や大衆化への問い【内容の取扱い(2)エ】 (2)第一次世界大戦と大衆社会 ア次のような知識を身に付けること。 (3)経済危機と第二次世界大戦 ア次のような知識を身に付けること。 D グローバル化と私たち【内容の取扱い(2)オ】 (2)冷戦と世界経済 ア次のような知識を身に付けること。 (3)世界秩序の変容と日本 ア次のような知識を身に付けること。	シラバスの内容 ○指定学習項目 ・指定学習項目 3：世界規模の戦争への動き ○世界史トピック ・世界史トピック 5：近世の国家（1450～1789 年） ・世界史トピック 7：産業化のはじまり、発展とその影響（1750～2005 年） ・世界史トピック 8：独立運動（1800～2000 年） ・世界史トピック 9：民主主義国家の出現と発展（1848～2000 年） ・世界史トピック 11：20 世紀の戦争の原因と影響 ・世界史トピック 12：冷戦：超大国間の緊張と対立（20 世紀）	シラバスの内容 ○HL 選択項目 ・HL 選択項目 1：アフリカと中東の歴史 10、 11、 17 ・HL 選択項目 2：南北アメリカの歴史 8、 10、 15、 16、 17 ・HL 選択項目 3：アジアとオセアニアの歴史 5、 6、 7、 8、 9、 11、 12、 14、 15、 16、 18 ・HL 選択項目 4：ヨーロッパの歴史 7、 8、 9、 10、 11、 12、 13、 14、 15、 16、 17

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	B 近代化と私たち【内容の取扱い(2)ウ】 (2)結び付く世界と日本の開国 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (3)国民国家と明治維新 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 C 国際秩序の変化や大衆化への問い【内容の取扱い(2)エ】 (2)第一次世界大戦と大衆社会 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (3)経済危機と第二次世界大戦 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 D グローバル化と私たち【内容の取扱い(2)オ】 (2)冷戦と世界経済 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (3)世界秩序の変容と日本 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。	ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ ○D Pの「歴史」で使用する主要概念の詳細 ・スキル	
	B 近代化と私たち【内容の取扱い(2)ウ】 (4) 近代化と現代的な諸課題 C 国際秩序の変化や大衆化と私たち【内容の取扱い(2)エ】 (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 D グローバル化と私たち【内容の取扱い(2)オ】 (4) 現代的な諸課題の形成と展望	内部評価 ○内部評価の詳細ー標準レベル (SL) と上級レベル (HL) ・歴史研究 ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ ○D Pの「歴史」で使用する主要概念の詳細 ・スキル	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (第2款第3の3)	(1)内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ア内容の A、B、C 及び D については、この順序で取り扱うものとし、A、B 及び C 並びに D の(1)から(3)までの学習をすることにより、D の(4)の学習が充実するように年間指導計画を作成すること。	ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ ○D Pの「歴史」で使用する主要概念の詳細 ・スキル (参考)「歴史」教師用参考資料 ○学習の方法 ・思考スキル ・リサーチスキル ○指導の方法 ・「ローカル」と「グローバル」の両方のレベルで文脈化した指導 ・すべての生徒のニーズに応じて差別化した指導 (参考)ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティーを取り込む	

(2)「日本史探究」－「ヒストリー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第4の1)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	ねらい ○「個人と社会」(グループ3)のねらい ○「歴史」のねらい	
内容 (第2款第4の2)	A 原始・古代の日本と東アジア【内容の取扱い(2)オ】 (1)黎明期の日本列島と歴史的環境【内容の取扱い(2)イ】 (2)歴史資料と原始・古代の展望【内容の取扱い(2)ウ】 (3)古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）【内容の取扱い(2)エ】	—	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	B 中世の日本と世界【内容の取扱い(2)カ】 (1)中世への転換と歴史的環境【内容の取扱い(2)イ】 ア次のような知識を身に付けること。 (3)中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）【内容の取扱い(2)エ】 ア次のような知識を身に付けること。 C 近世の日本と世界【内容の取扱い(2)キ】 (1)近世への転換と歴史的環境【内容の取扱い(2)イ】 ア次のような知識を身に付けること。 (3)近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）【内容の取扱い(2)エ】 ア次のような知識を身に付けること。 D 近現代の地域・日本と世界【内容の取扱い(2)ク】 (1)近代への転換と歴史的環境【内容の取扱い(2)イ】 ア次のような知識を身に付けること。 (3)近現代の地域・日本と世界の画期と構造【内容の取扱い(2)エ】 ア次のような知識を身に付けること。	シラバスの内容 ○指定学習項目 ・指定学習項目3：世界規模の戦争への動き ○世界史トピック ・世界史トピック1：社会と経済（750～1400年） ・世界史トピック4：過渡期の社会（1400～1700年） ・世界史トピック5：近世の国家（1450～1789年） ・世界史トピック9：民主主義国家の出現と発展（1848～2000年）	シラバスの内容 ○HL 選択項目 ・HL 選択項目3：アジアとオセアニアの歴史2、3、7、9、11

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	B 中世の日本と世界【内容の取扱い(2)カ】 (1)中世への転換と歴史的環境【内容の取扱い(2)イ】 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (2)歴史資料と中世の展望【内容の取扱い(2)ウ】 (3)中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）【内容の取扱い(2)エ】 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 C 近世の日本と世界【内容の取扱い(2)キ】 (1)近世への転換と歴史的環境【内容の取扱い(2)イ】 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (2)歴史資料と近世の展望【内容の取扱い(2)ウ】 (3)近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）【内容の取扱い(2)エ】 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 D 近現代の地域・日本と世界【内容の取扱い(2)ク】 (1)近代への転換と歴史的環境【内容の取扱い(2)イ】 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (2)歴史資料と近代の展望【内容の取扱い(2)ウ】 (3)近現代の地域・日本と世界の画期と構【内容の取扱い(2)エ】 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。	ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ ○D Pの「歴史」で使用する主要概念の詳細 ・スキル	
	D 近現代の地域・日本と世界【内容の取扱い(2)ク】 (4) 現代の日本の課題の探究	内部評価 ○内部評価の詳細ー標準レベル (SL) と上級レベル (HL) ・歴史研究	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (第2款第4の3)	(1)内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ア 内容のA、B、C及びDは、この順序で扱うこと。また、「歴史総合」で学習した歴史の学び方を活用すること。	「歴史」の学習 ○歴史と国際的な視野 ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ ○D Pの「歴史」で使用する主要概念の詳細 ・スキル (参考)「歴史」教師用参考資料 ○学習の方法 ○指導の方法 ・「ローカル」と「グローバル」の両方のレベルで文脈化した指導 ・すべての生徒のニーズに応じて差別化した指導 (参考)ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティーを取り込む	

(3)「世界史探究」―「ヒストリー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第5の1)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	ねらい ○「個人と社会」(グループ3)のねらい ○「歴史」のねらい	
内容 (第2款第5の2)	A 世界史へのまなざし【内容の取扱い(2)イ】 B 諸地域の歴史的特質の形成【内容の取扱い(2)ウ】	—	
	C 諸地域の交流・再編【内容の取扱い(2)エ】 (1)諸地域の交流・再編への問い D 諸地域の結合・変容【内容の取扱い(2)オ】 (1)諸地域の結合・変容への問い	ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ ○DPの「歴史」で使用する主要概念の詳細 ・スキル	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	C 諸地域の交流・再編【内容の取扱い(2)エ】 (2)結び付くユーラシアと諸地域 ア次のような知識を身に付けること。 (3)アジア諸地域とヨーロッパの再編 ア次のような知識を身に付けること。	シラバスの内容 ○指定学習項目 ・指定学習項目1：軍事指導者 ・指定学習項目2：征服とその影響 ○世界史トピック ・世界史トピック1：社会と経済（750～1400年） ・世界史トピック2：戦争の原因と結果（750～1500年） ・世界史トピック3：王朝と支配者（750～1500年） ・世界史トピック4：過渡期の社会（1400～1700年） ・世界史トピック5：近世の国家（1450～1789年） ・世界史トピック6：近世の戦争の原因と結果（1500～1750年）	シラバスの内容 ○HL 選択項目 ・HL 選択項目1：アフリカと中東の歴史1、2、3、4、7 ・HL 選択項目2：南北アメリカの歴史2、3 ・HL 選択項目3：アジアとオセアニアの歴史1、3、4 ・HL 選択項目4：ヨーロッパの歴史1、2、3、4、5、6、7
	D 諸地域の結合・変容【内容の取扱い(2)オ】 (2)世界市場の形成と諸地域の結合 ア次のような知識を身に付けること。 (3)帝国主義とナショナリズムの高揚 ア次のような知識を身に付けること。 (ア)第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解すること。	シラバスの内容 ○世界史トピック ・世界史トピック7：産業化のはじまり、発展とその影響（1750～2005年） ・世界史トピック8：独立運動（1800～2000年） ・世界史トピック9：民主主義国家の出現と発展（1848～2000年）	シラバスの内容 ○HL 選択項目 ・HL 選択項目2：南北アメリカの歴史7、8 ・HL 選択項目3：アジアとオセアニアの歴史5、6、7、8、9 ・HL 選択項目4：ヨーロッパの歴史8、9、10、11、12

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	D 諸地域の結合・変容【内容の取扱い(2)オ】 (3)帝国主義とナショナリズムの高揚 ア次のような知識を身に付けること。 (イ) 第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解すること。 (4)第二次世界大戦と諸地域の変容 ア次のような知識を身に付けること。	シラバスの内容 ○指定学習項目 ・指定学習項目 3：世界規模の戦争への動き ○世界史トピック ・世界史トピック 8：独立運動（1800～2000 年） ・世界史トピック 10：独裁主義的国家（20 世紀） ・世界史トピック 11：20 世紀の戦争の原因と影響	シラバスの内容 ○HL 選択項目 ・HL 選択項目 2：南北アメリカの歴史 9、10、12 ・HL 選択項目 3：アジアとオセアニアの歴史 10、11、12 ・HL 選択項目 4：ヨーロッパの歴史 12、13、14、15、16
	D 諸地域の結合・変容【内容の取扱い(2)オ】 (4)第二次世界大戦と諸地域の変容 ア次のような知識を身に付けること。 (イ) 第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序、冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解すること。 E 地球世界の課題【内容の取扱い(2)カ】 (1)国際機構の形成と平和への模索 ア次のような知識を身に付けること。 (2)経済のグローバル化と格差の是正 ア次のような知識を身に付けること。 (3)科学技術の高度化と知識基盤社会 ア次のような知識を身に付けること。	シラバスの内容 ○指定学習項目 ・指定学習項目 4：権利と抗議運動 ・指定学習項目 5：紛争と介入 ○世界史トピック ・世界史トピック 7：産業化のはじまり、発展とその影響（1750～2005 年） ・世界史トピック 8：独立運動（1800～2000 年） ・世界史トピック 11：20 世紀の戦争の原因と影響 ・世界史トピック 12：冷戦：超大国間の緊張と対立（20 世紀）	シラバスの内容 ○HL 選択項目 ・HL 選択項目 1：アフリカと中東の歴史 11、14、15、17、18 ・HL 選択項目 2：南北アメリカの歴史 13、14、15、16、17 ・HL 選択項目 3：アジアとオセアニアの歴史 10、11、12、13、14、15、16、17、18 ・HL 選択項目 4：ヨーロッパの歴史 15、16、17、18

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	C 諸地域の交流・再編【内容の取扱い(2)エ】 (2)結び付くユーラシアと諸地域 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (3)アジア諸地域とヨーロッパの再編 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 D 諸地域の結合・変容【内容の取扱い(2)オ】 (2)世界市場の形成と諸地域の結合 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (3)帝国主義とナショナリズムの高揚 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (4)第二次世界大戦と諸地域の変容 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 E 地球世界の課題【内容の取扱い(2)カ】 (1)国際機構の形成と平和への模索 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (2)経済のグローバル化と格差の是正 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (3)科学技術の高度化と知識基盤社会 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。	ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ ○D Pの「歴史」で使用する主要概念の詳細 ・スキル	
	E 地球世界の課題【内容の取扱い(2)オ】 (4)地球世界の課題の探究	内部評価 ○内部評価の詳細ー標準レベル (SL) と上級レベル (HL) ・歴史研究	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (第2款第5の3)	(1)内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。 (2)内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ア内容のA、B、C、D及びEについては、この順序で取り扱うものとし、A、B、C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習をすることにより、Eの(4)の学習が充実するように年間指導計画を作成すること。また、「歴史総合」で学習した歴史の学び方を活用すること。	ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ ○D Pの「歴史」で使用する主要概念の詳細 ・スキル (参考)「歴史」教師用参考資料 ○学習の方法 ○指導の方法 ・「ローカル」と「グローバル」の両方のレベルで文脈化した指導 ・すべての生徒のニーズに応じて差別化した指導 (参考)ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティーを取り込む	

学習指導要領「地理総合」「地理探究」—IB「ジオグラフィー」対応関係表

(0) 教科「地理歴史」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	ねらい ○「個人と社会」のねらい
指導計画の作成 (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。 (2)地理歴史科の目標を達成するため、公民科などとの関連を図るとともに、地理歴史科に属する科目相互の関連に留意しながら、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに指導が偏らないようにすること。 (3)各科目の履修については、全ての生徒に履修させる科目である「地理総合」を履修した後に選択科目である「地理探究」を、同じく全ての生徒に履修させる科目である「歴史総合」を履修した後に選択科目である「日本史探究」、「世界史探究」を履修できるという、この教科の基本的な構造に留意し、各学校で創意工夫して適切な指導計画を作成すること。 (4)障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。	ディプロマプログラムとは ○「指導」と「学習」の方法 「地理」の学習 (参考)ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや構想したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視すること。 (2)調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図るようにすること。その際、地図や年表を読んだり作成したり、現代社会の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するに当たっては、関連する各種の統計、年鑑、白書、画像、新聞、読み物、その他の資料の出典などを確認し、その信頼性を踏まえつつ適切に活用したり、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにすること。 (3)社会的事象については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示するよう配慮し、多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益適切な教材に基づいて指導するとともに、特定の事柄を強調し過ぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げることをしないよう留意すること。 (4)情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにすること。その際、課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、情報モラルの指導にも留意すること。 3 内容の指導に当たっては、教育基本法第 14 条及び第 15 条の規定に基づき、適切に行うよう特に慎重に配慮して、政治及び宗教に関する教育を行うものとする。	「地理」の学習 ○慎重な取り扱いを要するトピックへの取り組み 「IB の学習者像」 地理的技能

(1)「地理総合」―「ジオグラフィー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第1の1)	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。	ねらい ○「個人と社会」のねらい ○「地理」のねらい	
内容 (第2款第1の2)	A 地図や地理情報システムで捉える現代世界【内容の取扱い(2)ア】 (1)地図や地理情報システムと現代世界	「地理」の学習 ○「地理」とコアのつながり ・「地理」と「知の理論」(TOK) 「IBの学習者像」 地理的技能 「地理」の「指導の方法」と「学習の方法」 ○シラバスの構成	シラバスの内容 ○パート3：HL 発展項目 ・単元4：権力、場所、ネットワーク
	B 国際理解と国際協力【内容の取扱い(2)イ】 (1)生活文化の多様性と国際理解	—	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	B 国際理解と国際協力【内容の取扱い(2)イ】 (2)地球的課題と国際協力	シラバスの内容 ○パート1：地理的なテーマ ・選択項目A：淡水 ・選択項目B：海洋と海岸線 ・選択項目C：極限環境 ・選択項目D：地球物理学的なハザード現象 ・選択項目F：食料と健康 ・選択項目G：都市環境 ○パート2：SL・HL 共通項目（コアテーマ） ・単元1：人口の変化 ・単元2：世界の気候－脆弱性と順応性 ・単元3：グローバルな資源の消費と安全保障	—
		「地理」の学習 ○「地理」と国際的な視野 「IBの学習者像」 地理的技能	
	C 持続可能な地域づくりと私たち【内容の取扱い(2)ウ】 (1)自然環境と防災 (2)生活圏の調査と地域の展望	シラバスの内容 ○パート1：地理的なテーマ ・選択項目A：淡水 ・選択項目D：地球物理学的なハザード現象	—
		「IBの学習者像」 地理的技能 内部評価 ○論理的根拠	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (第2款第1の3)	(1)内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。	「地理」の学習 「IB の学習者像」 地理的技能 (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティーを取り込む	

(2)「地理探究」―「ジオグラフィー」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第2の1)	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探求しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。	ねらい ○「個人と社会」のねらい ○「地理」のねらい	
内容 (第2款第2の2)	A 現代世界の系統地理的考察【内容の取扱い(2)ア】 (1)自然環境 ア次のような知識を身に付けること。 (2)資源、産業 ア次のような知識を身に付けること。 (3)交通・通信、観光 ア次のような知識を身に付けること。 (4)人口、都市・村落 ア次のような知識を身に付けること。	シラバスの内容 ○パート1：地理的なテーマ ・選択項目A：淡水 ・選択項目B：海洋と海岸線 ・選択項目C：極限環境 ・選択項目D：地球物理学的なハザード現象 ・選択項目E：余暇活動、観光、スポーツ ・選択項目F：食料と健康 ・選択項目G：都市環境 ○パート2：SL・HL 共通項目（コアテーマ） ・地理的なものの見方―グローバルな変化 ・単元1：人口の変化 ・単元2：世界の気候―脆弱性と順応性	シラバスの内容 ○パート3：HL 発展項目 ・単元4：権力、場所、ネットワーク

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
		・単元３：グローバルな資源の消費と安全保障	
		「IB の学習者像」 地理的技能	
	A 現代世界の系統地理的考察【内容の取扱い(2)ア】 (1)自然環境 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (2)資源、産業 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (3)交通・通信、観光 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (4)人口、都市・村落 イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。	「IB の学習者像」 地理的技能	
	A 現代世界の系統地理的考察【内容の取扱い(2)ア】 (5)生活文化、民族・宗教	—	
	B 現代世界の地誌的考察【内容の取扱い(2)イ】 (1) 現代世界の地域区分	—	
	B 現代世界の地誌的考察【内容の取扱い(2)イ】 (2) 現代世界の諸地域	シラバスの内容 ○パート２：SL・HL 共通項目（コアテーマ） ・単元１：人口の変化 ・単元２：世界の気候—脆弱性と順応性 ・単元３：グローバルな資源の消費と安全保障	シラバスの内容 ○パート３：HL 発展項目 ・単元４：権力、場所、ネットワーク ・単元５：人間開発と多様性 ・単元６：グローバルなリスクと順応性
		「IB の学習者像」 地理的技能	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	C 現代世界におけるこれからの日本の国土像【内容の取扱い(2)ウ】 (1)持続可能な国土像の探究	—	
内容の取扱い (第2款第2の3)	(1)内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。	「地理」の学習 「IB の学習者像」 地理的技能 (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティを取り込む	

学習指導要領「政治・経済」—IB「エコノミクス」対応関係表

(0) 教科「公民」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。	ねらい ○「個人と社会」のねらい
指導計画の作成と内容の取扱い (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象等の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。 (2)各科目の履修については、全ての生徒に履修させる科目である「公共」を履修した後に選択科目である「倫理」及び「政治・経済」を履修できるという、この教科の基本的な構造に留意し、各学校で創意工夫して適切な指導計画を作成すること。その際、「公共」は、原則として入学年次及びその次の年次の2か年のうちに履修させること。 (3)障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。	経済における「指導のアプローチ」と ATL (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象等の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、現実社会に見られる課題などについて、考察したことや構想したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視すること。 (2)諸資料から、社会的事象等に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、具体的な体験を伴う学習の充実を図るようにすること。その際、現代の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するに当たっては、関連する各種の統計、年鑑、白書、新聞、読み物、地図その他の資料の出典などを確認し、その信頼性を踏まえつつ適切に活用したり、考察、構想の過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにすること。 (3)社会的事象等については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示するよう配慮し、多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益適切な教材に基づいて指導するとともに、特定の事柄を強調し過ぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げることをしないよう留意すること。 (4)情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにすること。その際、課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、情報モラルの指導にも配慮すること。 3 内容の指導に当たっては、教育基本法第 14 条及び第 15 条の規定に基づき、適切に行うよう特に慎重に配慮して、政治及び宗教に関する教育を行うものとする。	経済における「指導のアプローチ」と ATL 「経済」の学習 ○「経済」と「IB の学習者像」 (参考)「経済」教師用参考資料 指導のアプローチ ○探求を基盤とした指導 ・体験的な学習 (EL) 学習のアプローチ ○リサーチスキル (参考)ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○DP のすべての教師が「言語の教師」である 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティを取り込む

(1)「政治・経済」―「エコノミクス」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第3の1)	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことゝの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 (3)よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	ねらい ○「個人と社会」のねらい ○「経済」のねらい	
内容 (第2款第3の2)	A 現代日本における政治・経済の諸課題【内容の取扱い(2)ウ】 (1)現代日本の政治・経済 ア次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めること。	—	
	(イ) 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めること。 (ウ) 現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けること。	シラバス ○単元1：経済学への導入 ・1.1 経済学とは何か ○単元2：ミクロ経済学 ・2.1 需要 ・2.2 供給 ・2.3 競争市場の均衡 ・2.7 ミクロ経済学における政府の役割	—

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
		○単元3：マクロ経済学 ・3.1 経済活動を測定するさまざまな方法 ・3.2 さまざまな経済活動—需要と総供給 ・3.3 マクロ経済目標 ・3.5 需要管理（需要サイド政策）—金融政策 ・3.6 需要管理—財政政策 評価目標 ・1. 知識と理解（評価目標1） ・4. 適切なスキルの活用と応用（評価目標4）	
		（参考）「経済」教師用参考資料 学習のアプローチ（ATL） ○リサーチスキル	
	イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア）民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現すること。 （イ）政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。	—	
	（ウ）経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現すること。 （エ）市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。	シラバス ○単元2：ミクロ経済学 ・概念的理解 ・TOK の問い ・2.8 市場の失敗—外部性と共有資源 ・2.9 市場の失敗—公共財 ○単元3：マクロ経済学 ・3.2 さまざまな経済活動—総需要と総供給	シラバス ○単元2：ミクロ経済学 ・2.10 市場の失敗—情報の非対称性 ・2.11 市場の失敗—市場支配力 ・2.12 市場での公正実現の不可能性

高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
	標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	・3.4 不平等と貧困の経済学 ・3.5 需要管理（需要サイド政策）—金融政策 ・3.6 需要管理（需要サイド政策）—財政政策	
	(参考)「経済」教師用参考資料 学習のアプローチ (ATL) ○思考スキル ○リサーチスキル	
(2)現代日本における政治・経済の諸課題の探究【内容の取扱い(2)ウ(ク)】	「経済」の学習 ○「経済」と国際的な視野 評価目標 ・1. 知識と理解（評価目標1） ・2. 応用と分析（評価目標2） ・3. 総括と評価（評価目標3） (参考)「経済」教師用参考資料 指導のアプローチ ○探究を基盤とした指導 ・地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導	
B グローバル化する国際社会の諸課題【内容の取扱い(2)エ】 (1)現代の国際政治・経済 ア(ア) 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土（領海、領空を含む。）などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めること。	—	
(イ) 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めること。 (ウ) 現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けること。	シラバス ○単元4：グローバル経済 ・4.1 国際貿易の便益 ・4.2 貿易保護の種類	—

高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
	標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	・ 4.3 貿易保護・規制に対する賛否 ・ 4.5 為替相場の変動 ・ 4.6 国際収支 ・ 4.10 経済成長・経済発展戦略 評価目標 ・ 1. 知識と理解（評価目標 1） ・ 4. 適切なスキルの活用と応用（評価目標 4）	
	（参考）「経済」教師用参考資料 学習のアプローチ（ATL） ○リサーチスキル	
イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア）国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現すること。 （イ）国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。	—	
（ウ）相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現すること。	シラバス ○単元 4：グローバル経済	—
	（参考）「経済」教師用参考資料 学習のアプローチ（ATL） ○思考スキル ○リサーチスキル	
（エ）国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。	—	
（2）グローバル化する国際社会の諸課題の探究	評価目標 ・ 1. 知識と理解（評価目標 1） ・ 2. 応用と分析（評価目標 2） ・ 3. 総括と評価（評価目標 3）	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
		(参考)「経済」教師用参考資料 指導のアプローチ ○探究を基盤とした指導 ・地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導	
内容の取扱い (第2款第3の3)	(1)内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。	—	
	(2)内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ア この科目の内容の特質に応じ、学習のねらいを明確にした上でそれぞれ関係する専門家や関係諸機関などとの連携・協働を積極的に図り、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動の充実を図るようにすること。 イ(ア)A及びBのそれぞれの(2)においては、小学校及び中学校で習得した概念などに関する知識や、「公共」で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方などを基に、それぞれの(1)における学習の成果を生かし、政治及び経済の基本的な概念や理論などの理解の上に立って、理論と現実の相互関連を踏まえながら、事実を基に多面的・多角的に探究できるよう学習指導の展開を工夫すること。その際、生徒や学校、地域の実態などに応じて、A及びBのそれぞれにおいて探究する課題を選択させること。また、適切かつ十分な授業時数を配当すること。	(参考)ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティーを取り込む	

学習指導要領「数学」—IB「マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズ」対応関係表

(0) 教科「数学」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい
指導計画の作成と内容の取扱い (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。 (2)「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」を履修させる場合は、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」の順に履修させることを原則とすること。 (3)「数学A」については、「数学Ⅰ」と並行してあるいは「数学Ⅰ」を履修した後に履修させ、「数学B」及び「数学C」については、「数学Ⅰ」を履修した後に履修させることを原則とすること。 (4)各科目を履修させるに当たっては、当該科目や数学科に属する他の科目の内容及び理科、家庭科、情報科、この章に示す理数科等の内容を踏まえ、相互の関連を図るとともに、学習内容の系統性に留意すること。 (5)障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。	「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」(ATL) ○概念理解 ○数学的探究 ○数学的モデル化 ○ツールキット (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)各科目の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等を育成するため、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したり、数学的な表現を解釈したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの機会を設けること。 (2)各科目の指導に当たっては、必要に応じて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高めるようにすること。 (3)各科目の内容の「用語・記号」は、当該科目で扱う内容の程度や範囲を明確にするために示したものであり、内容と密接に関連させて扱うこと。	「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」(ATL) ○テクノロジーの使用 (参考)「数学：解析とアプローチ」教師用参考資料 ○効果的なチームワークと協働と「数学」
	3 各科目の指導に当たっては、数学を学習する意義などを実感できるよう工夫するとともに、次のような数学的活動に取り組むものとする。 (1)日常の事象や社会の事象などを数理的に捉え、数学的に表現・処理して問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って考察する活動。 (2)数学の事象から自ら問題を見いだし解決して、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する活動。 (3)自らの考えを数学的に表現して説明したり、議論したりする活動。	「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」(ATL) ○数学的モデル化 (参考)「数学：解析とアプローチ」教師用参考資料 ○効果的なチームワークと協働と「数学」

(1)「数学Ⅰ」―「マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズ」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第1の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第1の2)	(1)数と式【内容の取扱い(2)】	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・数の体系：自然数／整数($\mathbb{Z}$)／有理数($\mathbb{Q}$)、無理数／実数($\mathbb{R}$) ・整数、小数、および分数の加減乗除(計算の順序を含む) ・因数分解や展開などの代数式の操作 ・一次方程式および一次不等式の解法 ・集合の概念と基本的な表記法集合の演算：和と共通部分	シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・AHL1.15 背理法による証明、命題が必ずしも成り立たないことを示すうえでの反例の使用
		「数学：解析とアプローチ」の「指導のアプローチ」とATL ○証明	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(2)図形と計量【内容の取扱い(3)】	シラバスの内容 ○トピック3：幾何と三角法 ・SL3.2 正弦、余弦、および正接の比を用いた直角三角形の辺の長さや角度の算出、正弦定理、余弦定理 他の文脈：三角測量、地図の作成。 ・SL3.3 ピタゴラスの定理を含む、直角三角形の三角比および直角三角形でない三角形の三角比の応用 他の文脈：三角測量、地図の作成、航海術と無線通信航海における視差の利用 ・SL3.5 0、$\pi/6$、$\pi/4$、$\pi/3$、$\pi/2$、およびこれらの倍数の各三角比の厳密値	—

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(3)二次関数	事前に学習すべきトピック ○関数 ・テクノロジーを用いて一次関数および二次関数のグラフを描く シラバスの内容 ○トピック 2：関数 ・学習内容別の概念理解 ・SL の学習内容 ・SL2.3 テクノロジーを用いての、関数の和や差のグラフなどを含めたさまざまな関数のグラフの作成 ・SL2.4 グラフを特徴づける主要要素の特定 ・SL2.6 二次関数$f(x)=ax^2+bx+c$ のグラフと y 切片 $(0, c)$。対称軸$f(x)=a(x-p)(x-q)$ に対する x 切片は$(p, 0)$ と $(q, 0)$、$f(x)=a(x-h)^2+k$ に対する頂点は (h, k) ・SL2.7 二次方程式および二次不等式の解法	—

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(4)データの分析	シラバスの内容 ○トピック4：確率と統計 ・理解すべき要点 ・学習内容別の概念理解 ・SL の学習内容 ・SL4.1 外れ値の解釈 ・SL4.3 ばらつきの尺度（四分位範囲、標準偏差、および分散） ・SL4.4 変数データの線形相関、ピアソンの積率相関係数 r 、散布図／目視による平均の点を通る最良のあてはめ直線	—
	〔課題学習〕【内容の取扱い(4)】 (1)から(4)までの内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識させ、学習意欲を含めた数学的に考える資質・能力を高めるようにする。	内部評価	
内容の取扱い (第2款第1の3)	(1)内容の(1)から(4)までについては、中学校数学科との関連を十分に考慮するものとする。	「数学」の学習 ○事前の学習経験	

(2)「数学Ⅱ」―「マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズ」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第2の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第2の2)	(1)いろいろな式	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・因数分解や展開などの代数式の操作 シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・SL1.6 簡単な演繹的証明(数と代数)／左辺が右辺に等しいことの証明を組み立てる方法、等式及び恒等式の記号と表記法 ・SL2.7 判別式 $\Delta = b^2 - 4ac$ と解の性質、すなわち、異なる2つの実数解をもつ、重解をもつ、実数解をもたない ・SL1.9 二項定理：$n \in \mathbb{N}$のとき、$(a+b)^n$の展開	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・有理式の加法および減法(HLのみ) シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・AHL1.12 複素数：$i^2=-1$を満たす<i>i</i>という数、デカルト表示 $z=a+bi$／「実部」、「虚部」、「共役」、「絶対値」、「偏角」という用語 ・AHL1.14 実数係数の二次方程式および多項式方程式の共役な複素数解・AHL2.12 多項式関数とそのグラフ、およびそれを基にした方程式／零点、解、および因数、因数定理と剰余定理

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
		「数学：解析とアプローチ」の「指導のアプローチ」とATL ○数学的モデル化	
	(2)図形と方程式	—	
	(3)指数関数・対数関数	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・指数が簡単な正の値である指数式の値を計算する シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・学習内容別の概念理解 ・SL1.5 指数が整数の場合の指数法則、10 および e を底とする対数の基礎 他の文脈：マグニチュード、デシベル ・SL1.7 指数が有理数の場合の指数法則、対数法則、対数の底の変換 ○トピック2：関数 ・SL2.9 指数関数とそのグラフ：$f(x)=ax$、$a>0$、$f(x)=e^x$、対数関数とそのグラフ：$f(x)=\log_a x$、$x>0$、$f(x)=\ln x$、$x>0$	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・指数が有理数である指数式の値を計算する (HL のみ)
	(4)三角関数	シラバスの内容 ○トピック3：幾何と三角法 ・SL の学習内容 ・SL3.5 円：弧度法（ラジアン）による角度の表記／弧の長さ／扇形の面積 ・SL3.6 正弦及び余弦の2倍角の公式 ・SL3.7 三角関数 $\sin x$、$\cos x$ および $\tan x$ の振幅、周期性、グラフ、変換	シラバスの内容 ○トピック3：幾何と三角法 ・AHL3.10 加法定理、正接の2倍角の公式

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(5)微分・積分の考え	シラバスの内容 ○トピック5：微分・積分 ・学習内容別の概念理解 ・SL5.1 極限という概念についての基礎、傾きの関数としての導関数と変化率としての導関数 ・SL5.2 グラフによる $f'(x)>0$、$f'(x)=0$、$f'(x)<0$ の解釈 ・SL5.3 $f(x)=ax^n$ の導関数は $f'(x)=anx^{n-1}$、$n\in\mathbb{Z}$、次のような形の関数の導関数：$f(x)=ax^n+bx^{n-1}\dots$（ただし、指数はすべて整数） ・SL5.5 次のような形の関数に対する微分の逆演算としての積分の基礎：$f(x)=ax^n+bx^{n-1}\dots$ただし $n\in\mathbb{Z}$、$n\neq -1$、テクノロジーを用いた定積分 曲線 $y=f(x)$ と x 軸（ただし $f(x)>0$）との間の面積 ・SL5.8 極大点と極小点、極大・極小の判定、最適化	シラバスの内容 ○トピック5：微分・積分 ・AHL5.12 最も基本的な考え方に基づく導関数の定義 $f'(x)=\lim_{h\rightarrow 0}\frac{f(x+h)-f(x)}{h}$
	〔課題学習〕 (1)から(5)までの内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識させ、学習意欲を含めた数学的に考える資質・能力を高めるようにする。	内部評価	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (第2款第2の3)	—	—	

(3)「数学Ⅲ」―「マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズ」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第3の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第3の2)	(1)極限	シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・学習内容別の概念理解 ・SL1.4 等比数列と級数の金融分野への応用：複利・年間減価償却費 ・SL1.8 収束する無限等比級数の和 ○トピック2：関数 ・SL2.2 逆関数は元の関数の働きを逆にするまたはもとに戻すものであるという非公式な概念、直線 $y=x$ に関する鏡像としての逆関数、および $f^{-1}(x)$ という表記法 ・SL2.5 合成関数、恒等関数。逆関数 $f^{-1}(x)$ の決定 ・SL2.8 有理関数 $f(x)=(ax+b)/(cx+d)$ とそのグラフ	シラバスの内容 ○トピック5：微分・積分 ・学習内容別の概念理解 ・AHL5.12 最も基本的な考え方に基づく導関数の定義 $f'(x)=\lim_{h \rightarrow 0} (f(x+h)-f(x))/h$

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(2)微分法【内容の取扱い(1)】	シラバスの内容 ○トピック 5：微分・積分 ・学習内容別の概念理解 ・SL1.5 10 および e を底とする対数の基礎 ・SL5.4 与えられた点における接線と法線、およびそれらの方程式 ・SL5.6 積および商の微分法、合成関数に対する連鎖律、$x^n (n \in \mathbb{Q})$、$\sin x$、$\cos x$、e^x、および $\ln x$ の各導関数 ・SL5.7 関数のグラフの挙動 (f、f'、および f'' の各グラフ間の関係を含む) ・SL5.8 極大・極小の判定、最適化、接線の傾きが 0 である変曲点と 0 でない変曲点 ・SL5.9 変位 s、速度 v、加速度 a、および総移動距離に関する運動学の問題	シラバスの内容 ○トピック 5：微分・積分 ・学習内容別の概念理解 ・AHL5.12 1 点における関数の連続性と微分可能性の非公式な理解 ・AHL5.14 最適化

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(3)積分法【内容の取扱い(2)】	シラバスの内容 ○トピック 5：微分・積分 ・学習内容別の概念理解 ・SL5.5 次のような形の関数に対する微分の逆演算としての積分の基礎： $f(x) = ax^n + bx^{n-1} \dots$ （ただし $n \in \mathbb{Z}$ 、 $n \neq -1$ ） ・SL5.9 変位 s 、速度 v 、加速度 a 、および総移動距離に関する運動学の問題 ・SL5.10 微分の結果（連鎖律の逆）を利用した積分、または次の形の置換積分： $\int kg'(x)f(g(x))dx$ ・SL5.11 定積分（解析的アプローチを含む）	シラバスの内容 ○トピック 5：微分・積分 ・AHL5.12 部分積分の繰り返し ・AHL5.16 置換積分、部分積分、部分積分の繰り返し ・AHL5.17 ある区間において曲線と y 軸で囲まれた領域の面積、 x 軸または y 軸のまわりの回転体の体積
	〔課題学習〕【内容の取扱い(3)】 (1)から(3)までの内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識させ、学習意欲を含めた数学的に考える資質・能力を高めるようにする。	内部評価	
内容の取扱い (第2款第3の3)	—	—	

(4)「数学 A」－「マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズ」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第4の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第4の2)	(1)図形の性質	—	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(2)場合の数と確率【内容の取扱い(2)】	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・集合の概念と基本的な表記法集合の演算：和と共通部分 シラバスの内容 ○トピック 1：数と代数 ・SL1.9 パスカルの三角形及び nC_r の使用 ○トピック 4：確率と統計 ・理解すべき要点 ・学習内容別の概念理解 ・SL4.5 試行、結果、同様に確からしい、相対度数、標本空間 (U)、および事象の各概念、事象 A の確率は $P(A) = n(A)/n(U)$ で与えられる ・SL4.6 和事象：$P(A \cup B) = P(A) + P(B) - P(A \cap B)$、互いに排反な事象：$P(A \cap B) = 0$、独立事象：$P(A \cap B) = P(A)P(B)$、条件つき確率：$P(A B) = P(A \cap B)/P(B)$ ・SL4.11 次の公式の正式な定義と用法：$P(A B) = P(A \cap B)/P(B)$ (条件つき確率)、$P(A B) = P(A) = P(A B')$ (独立事象)	シラバスの内容 ○トピック 1：数と代数 ・AHL1.10 順列、組み合わせを含む数え上げの原理 ○トピック 4：確率と統計 ・学習内容別の概念理解
	(3)数学と人間の活動【内容の取扱い(3)】	「数学」の学習 ○「数学」と国際的な視野 事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・素数、因数 (約数)、および倍数	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・最大公約数と最小公倍数 (HL のみ)

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (第2款第4の3)	(1)この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。	—	

(5)「数学B」―「マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズ」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第5の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第5の2)	(1)数列	シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・学習内容別の概念理解 ・SL1.2 等差数列と級数、第 n 項を表す公式、および数列の最初 n 項の和を表す公式の使用、等差数列の和を表すシグマ記号の使用 ・SL1.3 等比数列と級数、第 n 項を表す公式、および数列の最初の n 項の和を表す公式の使用、等比数列の和を表すシグマ記号の使用 ・SL1.4 等比数列および等比級数の金融分野への応用：・複利・年間減価償却費	シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・AHL の学習内容 ・AHL1.15 数学的帰納法による証明
		「数学：解析とアプローチ」の「指導のアプローチ」とATL ○証明	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (第2款第5の3)	(2)統計的な推測	シラバスの内容 ○トピック4：確率と統計 ・学習内容別の概念理解 ・SL4.1 母集団、標本、無作為標本、離散型データと連続型データの各概念 ・SL4.7 離散型確率変数、離散型確率分布の各概念、離散型データの期待値(平均)、応用 ・SL4.8 二項分布 ・SL4.9 正規分布の性質、正規分布の確率計算	シラバスの内容 ○トピック4：確率と統計 ・AHL4.14 離散型確率変数および連続型確率変数の平均、分散、および標準偏差
	(3)数学と社会生活【内容の取扱い(2)(3)】	「シラバスの内容」 ○トピック4：確率と統計 ・SL4.4 散布図／目視による、平均の点を通る最良のあてはめ曲線	—
		「数学」の学習 ○「数学」と国際的な視野 「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」(ATL) ○数学的モデル化	
	(1)この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。	—	

(6)「数学C」―「マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズ」(HLのみ)

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第6の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第6の2)	(1)ベクトル	—	シラバスの内容 ○トピック3：幾何と三角法 ・学習内容別の概念理解 ・AHLの学習内容 ・AHL3.12 ベクトルの概念、位置ベクトル、変位ベクトル、ベクトルの成分：$\mathbf{v}=(v_1, v_2, v_3)=v_1\mathbf{i}+v_2\mathbf{j}+v_3\mathbf{k}$ 2つのベクトルの和と差、スカラー倍 ・AHL3.13 2つのベクトルの内積の定義、2平面のなす角度、直交するベクトル、平行なベクトル ・AHL3.14 2直線のなす角度、2次元および3次元における直線のベクトル方程式：$\mathbf{r}=\mathbf{a}+\lambda\mathbf{b}$

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (第2款第6の3)	(2)平面上の曲線と複素数平面	—	シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・理解すべき要点 ・学習内容別の概念理解 ・AHL1.12 複素数平面 ・AHL1.13 絶対値と偏角による表示（極座標表示）、デカルト表示、極座標表示、オイラー表示による和、積、商と、それらの幾何学的解釈 ・AHL1.14 ド・モアブルの定理と指数が有理数の場合への拡張
	(3)数学的な表現の工夫【内容の取扱い(2)】	「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」(ATL) ○数学的モデル化	
	(1) この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。	「数学」の学習 ○「数学」と国際的な視野 「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」(ATL) ○数学的モデル化 内部評価	
		—	

学習指導要領「数学」―IB「マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション」対応関係表

(0) 教科「数学」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい
指導計画の作成と内容の取扱い (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。 (2)「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」を履修させる場合は、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」の順に履修させることを原則とすること。 (3)「数学A」については、「数学Ⅰ」と並行してあるいは「数学Ⅰ」を履修した後に履修させ、「数学B」及び「数学C」については、「数学Ⅰ」を履修した後に履修させることを原則とすること。 (4)各科目を履修させるに当たっては、当該科目や数学科に属する他の科目の内容及び理科、家庭科、情報科、この章に示す理数科等の内容を踏まえ、相互の関連を図るとともに、学習内容の系統性に留意すること。 (5)障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。	「数学：応用と解釈」の「指導のアプローチ」とATL ○概念理解 ○数学的探究 ○数学的モデル化 ○ツールキット (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)各科目の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等を育成するため、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したり、数学的な表現を解釈したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの機会を設けること。 (2)各科目の指導に当たっては、必要に応じて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高めるようにすること。 (3)各科目の内容の〔用語・記号〕は、当該科目で扱う内容の程度や範囲を明確にするために示したものであり、内容と密接に関連させて扱うこと。	「数学：応用と解釈」の「指導のアプローチ」と ATL ○テクノロジーの使用 (参考)「数学：応用と解釈」教師用参考資料 ○効果的なチームワークと協働と「数学」
	3 各科目の指導に当たっては、数学を学習する意義などを実感できるよう工夫するとともに、次のような数学的活動に取り組むものとする。 (1)日常の事象や社会の事象などを数理的に捉え、数学的に表現・処理して問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って考察する活動。 (2)数学の事象から自ら問題を見いだし解決して、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する活動。 (3)自らの考えを数学的に表現して説明したり、議論したりする活動。	「数学：応用と解釈」の「指導のアプローチ」と ATL ○数学的モデル化 (参考)「数学：応用と解釈」教師用参考資料 ○効果的なチームワークと協働と「数学」

(1)「数学Ⅰ」―「マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第1の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第1の2)	(1)数と式【内容の取扱い(2)】	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・数の体系：自然数／整数($\mathbb{Z}$)／有理数($\mathbb{Q}$)、無理数／実数($\mathbb{R}$) ・整数、小数、および分数の加減乗除(計算の順序を含む) ・因数分解や展開などの代数式の操作 ・一次方程式および一次不等式の解法 ・集合の概念と基本的な表記法集合の演算：和と共通部分	—

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(2)図形と計量【内容の取扱い(3)】	シラバスの内容 ○トピック3：幾何と三角法 ・SL3.2 正弦、余弦、および正接の比を用いて、直角三角形の辺の長さや角度を求める、正弦定理：$a/\sin A=b/\sin B=c/\sin C$、余弦定理：$c^2=a^2+b^2-2ab\cos C$、$\cos C=(a^2+b^2-c^2)/2ab$ - 他の文脈：三角測量、余弦定理 ・SL3.3 ピタゴラスの定理を含む、直角三角形の三角比および直角三角形でない三角形の三角比の応用 - 他の文脈：三角測量、地図の作成、航海術と無線通信航海における視差の利用	—
	(3)二次関数	事前に学習すべきトピック ○関数 ・テクノロジーを用いて一次関数及び二次関数のグラフを描く シラバスの内容 ○トピック2：関数 ・SL の学習内容 ・学習内容別の概念理解 ・SL2.3 テクノロジーを用いての、関数の和や差のグラフなどを含めたさまざまな関数のグラフの作成 ・SL2.4 グラフを特徴づける主要素の特定（最大値と最小値） ・SL2.5 二次関数モデル、$f(x)=ax^2+bx+c(a\neq 0)$の対称軸、頂点、零点と解、x 軸及び y 軸の切片	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・有理数係数の二次方程式および二次不等式の解法（HL のみ） シラバスの内容 ○トピック2：関数 ・学習内容別の概念理解

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(4)データの分析	シラバスの内容 ○トピック4：確率と統計 ・理解すべき要点 ・SL の学習内容 ・学習内容別の概念理解 ・SL4.1 外れ値の解釈 ・SL4.3 ばらつきの尺度（四分位範囲、標準偏差、および分散） ・SL4.4 2 変数データの線形相関、ピアソンの積率相関係数 r、散布図：最良のあてはめ直線、目視での確認、平均の点を通る ・SL4.11 帰無仮説 H_0 と対立仮説 H_1 の定式化	シラバスの内容 ○トピック4：確率と統計 ・学習内容別の概念理解
	〔課題学習〕【内容の取扱い(4)】 (1) から (4) までの内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識させ、学習意欲を含めた数学的に考える資質・能力を高めるようにする。	内部評価	
内容の取扱い (第2款第1の3)	(1) 中学校数学科との関連を十分に考慮するものとする。	「数学」の学習 ○事前の学習経験	

(2)「数学Ⅱ」―「マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第2の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第2の2)	(1)いろいろな式	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・因数分解や展開などの代数式の操作	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・有理式の加法および減法 (HLのみ) シラバスの内容 トピック 1：数と代数 ・AHL 1.12 複素数：$i^2=-1$ を満たす i という数、デカルト表示 $z=a+bi$ / 「実部」、「虚部」、「共役」、「絶対値」、「偏角」という用語
	(2)図形と方程式	—	

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(3)指数関数・対数関数	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・指数が簡単な正の値である指数式の値を計算する シラバスの内容 ○トピック 1：数と代数 ・ SL1.5 指数が整数の場合の指数法則、10 および e を底とする対数の基礎 - 他の文脈：マグニチュード、デシベル ・ SL2.5 指数関数的に増加するモデルと減衰するモデル：$f(x)=ka^x+c$、$f(x)=ka^{x+c}$ ($a>0$)、$f(x)=ke^{rx+c}$	事前に学習すべきトピック ○数と代数 ・ 指数が有理数である指数式の値を計算する (HL のみ) シラバスの内容 ○トピック 1：数と代数 ・ AHL1.9 対数法則：$\log_a xy = \log_a x + \log_a y$、$\log_a x/y = \log_a x - \log_a y$、$\log_a x^m = m\log_a x$、ただし a、x、$y > 0$ ○トピック 2：関数 ・ AHL2.9 自然対数モデル：$f(x)=a+b\ln x$
	(4)三角関数	シラバスの内容 ○トピック 2：関数 ・ SL の学習内容 ・ SL2.5 正 弦 関 数 モ デ ル：$f(x)=a\sin(bx)+d$、$f(x)=a\cos(bx)+d$	シラバスの内容 ○トピック 2：関数 ・ AHL2.9 正弦関数モデル：$f(x)=a\sin(b(x-c))+d$ ○トピック 3：幾何と三角法 ・ AHL3.7 ラジアン の定義、度とラジアンとの相互変換 ・ AHL3.8 単位円に基づく $\cos\theta$ および $\sin\theta$ の定義、$\tan\theta$ を $\sin\theta / \cos\theta$ として定義する

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(5)微分・積分の考え【内容の取扱い(1)】	シラバスの内容 ○トピック5：微分・積分 ・学習内容別の概念理解 ・SL5.1 極限という概念についての基礎、傾きの関数としての導関数と変化率としての導関数 ・SL5.2 グラフによる $f'(x)>0$、$f'(x)=0$、$f'(x)<0$ の解釈 ・SL5.3 $f(x)=ax^n$ の導関数は $f'(x)=anx^{n-1}$、$n\in\mathbb{Z}$、次のような形の関数の導関数：$f(x)=ax^n+bx^{n-1}\dots$（ただし、指数はすべて整数） ・SL5.5 次のような形の関数に対する微分の逆演算としての積分の基礎：$f(x)=ax^n+bx^{n-1}\dots$ ただし $n\in\mathbb{Z}$、$n\neq -1$、テクノロジーを用いた定積分、曲線 $y=f(x)$ と x 軸（ただし $f(x)>0$）との間の面積 ・SL5.6 極大点と極小点 ・SL5.7 状況別の最適化問題	—
	〔課題学習〕【内容の取扱い(2)】 (1) から (5) までの内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識させ、学習意欲を含めた数学的に考える資質・能力を高めるようにする。	内部評価	

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (第2款第2の3)	—	—	

(3)「数学Ⅲ」―「マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第3の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第3の2)	(1)極限	シラバスの内容 ○トピック2：関数 ・SL2.2 逆関数は元の関数の働きを打ち消すものであるという直観的な捉え方、直線 $y=x$ に関する鏡像としての逆関数、および $f^{-1}(x)$ という表記	シラバスの内容 ○トピック2：関数 ・AHL2.7 文脈に即して関数を合成する、$(f \circ g)(x) = f(g(x))$ という表記、逆関数 f^{-1} と定義域の制限、逆関数を求める
	(2)微分法【内容の取扱い(1)】	シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・SL1.5 10 および e を底とする対数の基礎 ○トピック5：微分・積分 ・学習内容別の概念理解 ・SL5.4 与えられた点における接線と法線、およびそれらの方程式 ・SL5.6 極大点と極小点 ・SL5.7 状況別の最適化問題	シラバスの内容 ○トピック5：微分・積分 ・AHL5.9 連鎖律・積および商の微分法、$\sin x$、$\cos x$、$\tan x$、e^x、$\ln x$、$x^n (n \in \mathbb{Q})$ の各導関数 ・AHL5.10 第2次導関数、第2次導関数を調べることで、より、極大点か極小点かを判別する ・AHL5.13 変位 s、速度 v、加速度 a に関する運動学の問題

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(3)積分法【内容の取扱い(2)】	シラバスの内容 ○トピック5：微分・積分 ・学習内容別の概念理解 ・SL5.5 次のような形の関数に対する微分の逆演算としての積分の基礎： $f(x) = ax^n + bx^{n-1} \dots$ ただし $n \in \mathbb{Z}$ 、 $n \neq -1$	シラバスの内容 ○トピック5：微分・積分 ・AHL5.11 微分の結果を利用した積分、または $\int f(g(x))g'(x)dx$ という形の置換積分 ・AHL5.12 ある区間において曲線と x 軸、または y 軸とで囲まれた領域の面積、 x 軸、または y 軸のまわりの回転体の体積 ・AHL5.13 変位 s 、速度 v 、加速度 a に関する運動学の問題
	〔課題学習〕【内容の取扱い(3)】 (1) から (3) までの内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識させ、学習意欲を含めた数学的に考える資質・能力を高めるようにする。	内部評価	
内容の取扱い (第2款第3の3)	—	—	

(4)「数学 A」―「マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第4の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第4の2)	(1)図形の性質	—	

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(2)場合の数と確率【内容の取扱い(2)】	事前に学習すべきトピック ○数と代数 - 集合の概念と基本的な表記法集合の演算：和と共通部分 シラバスの内容 ○トピック4：確率と統計 - 理解すべき要点 - 学習内容別の概念理解 - SL4.5 試行、結果、同様に確からしい、相対度数、標本空間 (U)、および事象の各概念、事象 A の確率は $P(A) = n(A)/n(U)$ で与えられる - SL4.6 和事象：$P(A \cup B) = P(A) + P(B) - P(A \cap B)$、互いに排反な事象：$P(A \cap B) = 0$、独立事象：$P(A \cap B) = P(A)P(B)$、条件つき確率：$P(A B) = P(A \cap B)/P(B)$	—
	(3)数学と人間の活動【内容の取扱い(3)(4)】	「数学」の学習 ○「数学」と国際的な視野 事前に学習すべきトピック ○数と代数 素数、因数（約数）、および倍数	事前に学習すべきトピック ○数と代数 最大公約数と最小公倍数 (HLのみ)

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (第2款第4の3)	(1)この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。	—	

(5) 数学 B—「マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第5の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第5の2)	(1)数列	シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・学習内容別の概念理解 ・SL1.2 等差数列と級数、第 n 項を表す公式、および数列の最初の n 項の和を表す公式の使用、等差数列の和を表すシグマ記号の使用 ・SL1.3 等比数列と級数、第 n 項を表す公式、および数列の最初の n 項の和を表す公式の使用、等比数列の和を表すシグマ記号の使用 ・SL1.4 等比数列および等比級数の金融分野への応用：・複利・年間減価償却費	—

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(2)統計的な推測	シラバスの内容 ○トピック4：確率と統計 ・学習内容別の概念理解 ・SL4.1 母集団、標本、無作為標本、離散型データと連続型データの各概念 ・SL4.7 離散型確率変数、離散型確率分布の各概念、離散型データの期待値（平均）、応用 ・SL4.8 二項分布 ・SL4.9 正規分布の性質 ・SL4.11 帰無仮説 H_0 と対立仮説 H_1 の定式化、有意水準	シラバスの内容 ○トピック4：確率と統計 ・学習内容別の概念理解 ・AHL4.12 調査やアンケートなど、データの妥当な収集方法を立案する、さまざまな変数の中から適切な変数を選ぶ、分析の対象として適切なデータを選ぶ ・AHL4.14 $\bar{x}$ は μ の不偏推定量 ・AHL4.16 正規母集団の平均の信頼区間
	(3)数学と社会生活【内容の取扱い(2)(3)】	シラバスの内容 ○トピック4：確率と統計 ・SL4.4 散布図／最良のあてはめ曲線、目視での確認、平均の点を通る目視による、平均の点を通る	—
		「数学」の学習 ○「数学」と国際的な視野 「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」(ATL) ○数学的モデル化	
内容の取扱い (第2款第5の3)	(1)この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。	—	

(6)「数学C」―「マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション」(HLのみ)

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第6の1)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	ねらい	
内容 (第2款第6の2)	(1)ベクトル	—	シラバスの内容 ○トピック3：幾何と三角法 ・学習内容別の概念理解 ・AHL3.10 ベクトルの概念、位置ベクトル、変位ベクトル、ベクトルの成分：$\mathbf{v}=(v_1, v_2, v_3)=v_1\mathbf{i}+v_2\mathbf{j}+v_3\mathbf{k}$、2つのベクトルの和と差、スカラー倍 ・AHL3.11 2次元および3次元における直線のベクトル方程式：$\mathbf{r}=\mathbf{a}+\lambda\mathbf{b}$ ・AHL3.13 2つのベクトルの内積の定義と計算、2つのベクトルのなす角度、2直線のなす鋭角側の角度

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(2)平面上の曲線と複素数平面	—	シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・理解すべき要点 ・学習内容別の概念理解 ・AHL1.12 複素数平面 ・AHL1.13 絶対値と偏角による表示（極座標表示）：$z = r \cos \theta + i \sin \theta = r \operatorname{cis} \theta$、手計算およびテクノロジーを用いたデカルト表示、極座標表示、および指数表示の相互変換、極座標表示または指数表示の積、商、および整数乗の計算
		「数学：応用と解釈」の「指導のアプローチ」とATL ○数学的モデル化	
	(3)数学的な表現の工夫【内容の取扱い(2)】	—	シラバスの内容 ○トピック1：数と代数 ・AHL1.14 行列の定義、行列の代数、行列の乗算、単位行列と零行列 ・AHL2.9 区分的関数モデル ・AHL3.15 隣接行列
		「数学」の学習 ○「数学」と国際的な視野 「数学：応用と解釈」の「指導のアプローチ」とATL ○数学的モデル化 内部評価	

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (第2款第6の3)	(1)この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。	—	

学習指導要領「物理基礎」「物理」－IB「フィジックス」対応関係表

(0) 教科「理科」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	ねらい ○「理科」(グループ4)のねらい
指導計画の作成と内容の取扱い (第3款)	1 指導計画の作成 (1)単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ること。 (2)「物理」、「化学」、「生物」及び「地学」の各科目については、原則として、それぞれに対応する基礎を付した科目を履修した後に履修させること。 (3)各科目を履修させるに当たっては、当該科目や理科に属する他の科目の履修内容を踏まえ、相互の連携を一層充実させるとともに、他教科等の目標や学習の内容の関連に留意し、連携を図ること。 (4)障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。	「物理」の指導の方法 ○「理科」(グループ4)の実験スキル ○授業計画 グループ4プロジェクト ○「グループ4プロジェクト」について (参考)ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	2 内容の取扱い (1)各科目の指導に当たっては、問題を見だし観察、実験などを計画する学習活動、観察、実験などの結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動などが充実するようにすること。 (2)生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成を図ること。また、環境問題や科学技術の進歩と人間生活に関わる内容等については、持続可能な社会をつくることの重要性も踏まえながら、科学的な見地から取り扱うこと。 (3)各科目の指導に当たっては、観察、実験の過程での情報の収集・検索、計測・制御、結果の集計・処理などにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用すること。 (4)観察、実験、野外観察などの体験的な学習活動を充実させること。また、環境整備に十分配慮すること。 (5)各科目の指導に当たっては、大学や研究機関、博物館や科学学習センターなどと積極的に連携、協力を図るようにすること。 (6)科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることに触れること。また、理科で学習することが様々な職業などと関連していることにも触れること。 (7)観察、実験、野外観察などの指導に当たっては、関連する法規等に従い、事故防止に十分留意するとともに、使用薬品などの管理及び廃棄についても適切な措置を講ずること。	科学の本質（NOS） ○科学の客観性 ○科学の人間的な側面 「物理」の指導の方法 ○「理科」（グループ4）の実験スキル 内部評価 ○安全要件と推奨事項

(1)「物理基礎」－「フィジックス」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第2の1)	物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	ねらい ○「理科」(グループ4)のねらい	
内容及び内容の取扱い (第2款第2の2・3)	(1)物体の運動とエネルギー ア 物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)ア】 イ 物体の運動とエネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、運動の表し方、様々な力とその働き、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック1－測定と不確かさ ・1.1 物理における測定 ○トピック2－力学 ・2.1 運動 ・2.2 力 ・2.3 仕事・エネルギー・仕事率 ・2.4 運動量と力積	シラバスの内容 ○HL 発展項目のトピック ・B.3 流体と流体力学

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(2)様々な物理現象とエネルギーの利用 ア 様々な物理現象とエネルギーの利用を日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)イ】 イ 様々な物理現象とエネルギーの利用について、観察、実験などを通して探究し、波、熱、電気、エネルギーとその利用における規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック3－熱物理学 ・3.1 熱の概念 ○トピック4－波 ・4.2 進行波 ・4.4 波のふるまい ・4.5 定常波 ○トピック5－電気と磁気 ・5.1 電場 ・5.2 電流の発熱効果 ○トピック7－原子・電子核・素粒子 ・7.1 とびとびのエネルギーと放射能 ・7.2 核反応 ○トピック8－エネルギー生産 ・8.1 エネルギー源 ○SL・HL 共通項目のトピック ・B.2 熱力学	シラバスの内容 ○トピック11－電磁誘導 ・11.2 発電と送電 ○HL 発展項目のトピック ・B.4 強制振動と共振
		※各トピックの「自然や人間生活との関わり」を参照	
内容の取扱い (1) (第2款第2の3)	(1)内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。	「物理」の学習 ○事前の学習経験 「物理」の指導の方法 ○「理科」(グループ4)の実験スキル	

(2)「物理」－「フィジックス」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第3の1)	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	ねらい ○「理科」(グループ4)のねらい	
内容及び内容の取扱い (第2款第3の2・3)	(1)様々な運動 ア 様々な運動について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)ア】 イ 様々な物体の運動について、観察、実験などを通して探究し、平面内の運動と剛体のつり合い、運動量、円運動と単振動、万有引力、気体分子の運動における規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック2－力学 ・2.1 運動 ・2.2 力 ・2.4 運動量と力積 ○トピック3－熱物理学 ・3.1 熱の概念 ・3.2 気体の分子モデル ○トピック4－波 ・4.1 振動 ○トピック6－円運動と万有引力 ・6.1 円運動 ・6.2 ニュートンの万有引力の法則 ○SL・HL 共通項目のトピック ・B.1 剛体と回転運動の力学 ・B.2 熱力学	シラバスの内容 ○トピック9－波の減少 ・9.1 単振動 ○トピック10－場 ・10.1 場の表現 ・10.2 場の働き

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(2)波 ア 波について、日常生活や社会と関連付けて、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)イ】 イ 波について、観察、実験などを通して探究し、波の伝わり方、音、光における規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック 4－波 ・4.2 進行波 ・4.3 波の特性 ・4.4 波のふるまい ○SL・HL 共通項目のトピック ・C.1 イメージングの基礎 ・C.3 ファイバー光学	シラバスの内容 ○トピック 9－波の現象 ・9.3 干渉 ・9.5 ドップラー効果
	(3) 電気と磁気 ア 電気や磁気について、日常生活や社会と関連付けて、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)ウ】 イ 電気や磁気について、観察、実験などを通して探究し、電気と電流、電流と磁界における規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック 4－波 ・4.2 進行波 ○トピック 5－電気と磁気 ・5.1 電場 ・5.2 電流の発熱効果 ・5.3 電池 ・5.4 電流が磁場から受ける力	シラバスの内容 ○トピック 11－電磁誘導 ・11.1 電磁誘導 ・11.2 発電と送電 ・11.3 電気容量
	(4)原子 ア 原子について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)エ】 イ 原子について、観察、実験などを通して探究し、電子と光、原資と原子核における規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック 7－原子・原子核・素粒子 ・7.1 とびとびのエネルギーと放射能 ・7.2 核反応 ・7.3 物質の構造	シラバスの内容 ○トピック 9－波の現象 ・9.2 単スリットによる回折 ○トピック 12－量子物理学と原子核物理学 ・12.1 光と物質の相互作用
※各トピックの「自然や人間生活との関わり」を参照			

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (1) (第2款第3の3)	(1)内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。	「物理」の学習 「物理」の指導の方法 ○「理科」(グループ4)の実験スキル ○授業計画	

学習指導要領「化学基礎」「化学」―IB「ケミストリー」対応関係表

(0) 教科「理科」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	ねらい ○「理科」(グループ4)のねらい
指導計画の作成と内容の取扱い (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ること。 (3)各科目を履修させるに当たっては、当該科目や理科に属する他の科目の履修内容を踏まえ、相互の連携を一層充実させるとともに、他教科等の目標や学習の内容の関連に留意し、連携を図ること。 (4)障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。	「化学」の指導の方法 ○「理科」(グループ4)の実験スキル グループ4プロジェクト ○「グループ4プロジェクト」について (参考)ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導
	(2)「物理」、「化学」、「生物」及び「地学」の各科目については、原則として、それぞれに対応する基礎を付した科目を履修した後に履修させること。	—

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	2 内容の取扱い (1)各科目の指導に当たっては、問題を見いだし観察、実験などを計画する学習活動、観察、実験などの結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動などが充実するようにすること。 (2)生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成を図ること。また、環境問題や科学技術の進歩と人間生活に関わる内容等については、持続可能な社会をつくることの重要性も踏まえながら、科学的な見地から取り扱うこと。 (3)各科目の指導に当たっては、観察、実験の過程での情報の収集・検索、計測・制御、結果の集計・処理などにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用すること。 (5)各科目の指導に当たっては、大学や研究機関、博物館や科学学習センターなどと積極的に連携、協力を図るようにすること。 (6)科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることに触れること。また、理科で学習することが様々な職業などと関連していることにも触れること。 (7)観察、実験、野外観察などの指導に当たっては、関連する法規等に従い、事故防止に十分留意するとともに、使用薬品などの管理及び廃棄についても適切な措置を講ずること。	科学の本質（NOS） ○科学の客観性 ○科学の人間的な側面 「化学」の指導の方法 ○「理科」（グループ4）の実験スキル 内部評価 ○安全要件と推奨事項
	(4)観察、実験、野外観察などの体験的な学習活動を充実させること。また、環境整備に十分配慮すること。	—

(1)「化学基礎」－「ケミストリー」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第4の1)	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	ねらい ○「理科」(グループ4)のねらい	
内容及び内容の取扱い (第2款第4の2・3)	(1)化学と人間生活 ア 化学と人間生活について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)ア】 イ 身近な物質や元素について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現すること。	シラバスの内容 ○トピック1－物質と量的関係 ・1.1 粒子の特性と化学変化 ○トピック2－原子の構造 ・2.2 電子配置 ○トピック11－測定とデータ処理 ・11.1 測定と結果における不確かさと誤差	—

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(2)物質の構成 ア 物質の構成粒子について、次のことを理解すること。また、物質と化学結合についての観察、実験などを通して、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。 【内容の取扱い(2)イ】 イ 物質の構成について、観察、実験などを通して探究し、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック 2－原子の構造 ・2.1 原子核 ○トピック 3－元素の周期性 ・3.1 周期表 ・3.2 元素の性質の周期性 ○トピック 4－化学結合と構造 ・4.1 イオン結合と構造 ・4.2 共有結合 ・4.3 共有結合構造 ・4.4 分子間力 ・4.5 金属結合 ○トピック 10－有機化学 ・10.2 官能基の性質 ○SL・HL 共通項目のトピック ・A.7 環境への影響－プラスチック	—
	(3)物質の変化とその利用 ア 物質量と化学反応式、化学反応、化学が拓く世界について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)ウ】 イ 物質の変化とその利用について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック 1－物質量と量的関係 ・1.2 モルの概念 ・1.3 反応する物質の質量と気体体積 ○トピック 3－元素の周期性 ・3.2 元素の性質の周期性 ○トピック 8－酸と塩基 ・8.1 酸と塩基の定義 ・8.2 酸と塩基の性質 ・8.3 pH ・8.4 酸と塩基の強弱 ○トピック 9－酸化還元反応 ・9.1 酸化と還元 ○トピック 10－有機化学 ・10.2 官能基の性質	—

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
		各トピックの「自然や人間生活との関わり」	
内容の取扱い (1) (第2款第4の3)	(1)内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。	「化学」の学習 ○事前の学習経験 「化学」の指導の方法 ○「理科」(グループ4)の実験スキル	

(2)「化学」－「ケミストリー」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第5の1)	化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	ねらい ○「理科」(グループ4)のねらい	
内容及び内容の取扱い (第2款第5の2・3)	(1)物質の状態と平衡 ア 物質の状態とその変化、溶液と平衡について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)ア】 イ 物質の状態と平衡について、観察、実験などを通して探究し、物質の状態とその変化、溶液と平衡における規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック1－物質量と量的関係 ・1.3 反応する物質の質量と気体体積 ○トピック4－化学結合と構造 ・4.1 イオン結合と構造 ・4.4 分子間力 ・4.5 金属結合 ○トピック5－エネルギー論・熱化学 ・5.1 エネルギー変化の測定 ○反応速度論 ・6.1 衝突理論と反応速度	シラバスの内容 ○トピック17－化学平衡 ・17.1 化学平衡の法則 ○HL 発展項目のトピック ・A.8 超電導金属と X 線結晶構造解析
	(2)物質の変化と平衡 ア 化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)イ】 イ 物質の変化と平衡について、観察、実験などを通して探究し、化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック5－エネルギー論・熱化学 ・5.1 エネルギー変化の測定 ・5.2 ヘスの法則 ・5.3 結合エネルギーとエンタルピー ○トピック6－反応速度論 ・6.1 衝突理論と反応速度 ○トピック7－化学平衡 ・7.1 平衡定数 ○トピック9－酸化還元反応 ・9.2 電池	シラバスの内容 ○反応速度論 ・16.1 反応速度式と反応機構 ○酸と塩基 ・18.2 酸と塩基に関する計算 ・18.3 pH 曲線 ○HL 発展項目のトピック ・C.6 電気化学、蓄電池、燃料電池

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(3)無機物質の性質 ア 無機物質について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)ウ】 イ 無機物質について、観察、実験などを通して探究し、典型元素、遷移元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック 3－元素の周期性 ・3.1 周期表 ・3.2 元素の性質の周期性	シラバスの内容 ○トピック 13－周期表 - 遷移金属 ・13.1 d ブロック 1 段目の元素 ・13.2 d 軌道と錯イオンの色
	(4)有機化合物の性質 ア 有機化合物、高分子化合物について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)エ】 イ 有機化合物、高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物、高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック 10－有機化学 ・10.1 有機化学の基礎 ・10.2 官能基の性質 ○SL・HL 共通項目のトピック ・A.5 ポリマー ・B.2 タンパク質と酵素 ・B.4 糖質	シラバスの内容 ○トピック 20－有機化学 ・20.1 有機反応の種類 ・20.3 立体異性 ○HL 共通項目のトピック ・A.9 縮合ポリマー
	(5)化学が果たす役割 ア 化学が果たす役割を日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解すること。【内容の取扱い(2)オ】 イ 人間生活の中の化学について、これからの社会における科学が果たす役割を科学的に考察し、表現すること。	各トピックの「自然や人間生活との関わり」	
内容の取扱い (1) (第2款第5の3)	(1)内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。	「化学」の学習 「化学」の指導の方法 ○「理科」(グループ4)の実験スキル	

学習指導要領「生物基礎」「生物」－IB「バイオロジー」対応関係表

(0) 教科「理科」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 (3)自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。	ねらい ○「理科」(グループ4)のねらい
指導計画の作成と内容の取扱い (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。 (1)単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，理科の学習過程の特質を踏まえ，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ること。 (2)「物理」，「化学」，「生物」及び「地学」の各科目については，原則として，それぞれに対応する基礎を付した科目を履修した後に履修させること。 (3)各科目を履修させるに当たっては，当該科目や理科に属する他の科目の履修内容を踏まえ，相互の連携を一層充実させるとともに，他教科等の目標や学習の内容の関連に留意し，連携を図ること。 (4)障害のある生徒などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。	「生物」の指導の方法 ○「理科」(グループ4)の実験スキル ○授業計画 グループ4プロジェクト ○「グループ4プロジェクト」について (参考)ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)各科目の指導に当たっては、問題を見いだし観察、実験などを計画する学習活動、観察、実験などの結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動などが充実するようにすること。 (2)生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成を図ること。また、環境問題や科学技術の進歩と人間生活に関わる内容等については、持続可能な社会をつくることの重要性も踏まえながら、科学的な見地から取り扱うこと。 (3)各科目の指導に当たっては、観察、実験の過程での情報の収集・検索、計測・制御、結果の集計・処理などにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用すること。 (4)観察、実験、野外観察などの体験的な学習活動を充実させること。また、環境整備に十分配慮すること。 (5)各科目の指導に当たっては、大学や研究機関、博物館や科学学習センターなどと積極的に連携、協力を図るようにすること。 (6)科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることに触れること。また、理科で学習することが様々な職業などと関連していることにも触れること。 (7)観察、実験、野外観察などの指導に当たっては、関連する法規等に従い、事故防止に十分留意するとともに、使用薬品などの管理及び廃棄についても適切な措置を講ずること。	科学の本質（NOS） ○科学の客観性 ○科学の人間的な側面 「生物」の指導の方法 ○「理科」（グループ4）の実験スキル 内部評価 ○安全要件と推奨事項

(1)「生物基礎」―「バイオロジー」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第6の1)	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	ねらい ○「理科」(グループ4)のねらい	
内容及び内容の取扱い (第2款第6の2・3)	(1)生物の特徴 ア 生物の特徴について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)ア】 イ 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見出して表現すること。	シラバスの内容 ○トピック1―細胞生物学 ・1.1 細胞の概論 ・1.2 細胞の微細構造 ・1.5 細胞の起源 ・1.6 細胞分裂 ○トピック2―分子生物学 ・2.4 タンパク質 ・2.5 酵素 ・2.6 DNA および RNA の構造 ・2.7 DNA 複製、転写、および翻訳 ・2.8 細胞呼吸 ・2.9 光合成 ○トピック3―遺伝学 ・3.1 遺伝子	シラバスの内容 ○トピック7―核酸 ・7.2 転写と遺伝子発現 ○トピック8―代謝、細胞呼吸。光合成 ・8.2 細胞呼吸 ・8.3 光合成
	(2)ヒトの体の調節 ア ヒトの体の調節について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)イ】 イ ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック6―人間生理学 ・6.3 感染症病原体に対する防御 ・6.5 神経とシナプス ・6.6 ホルモン、恒常性、生殖 ○SL・HL 共通項目のトピック ・A.2 ヒトの脳	—

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(3)生物の多様性と生態系 ア 生物の多様性と生態系について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。また、生態系の保全の重要性について認識すること。【内容の取扱い(2)ウ】 イ 生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック4－生態学 ・4.1 種、群集、生態系 ・4.2 エネルギーの流れ ○SL・HL 共通項目のトピック ・C.2 群集と生態系 ・C.3 生態系への人類の影響 ・C.4 生物多様性の保全	—
内容の取扱い (1) (第2款第6の3)	(1)内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。	「生物」の学習 ○事前の学習経験 「生物」の指導の方法・学習の方法 ○「理科」(グループ4)の実験スキル	

(2)「生物」－「バイオロジー」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
目標 (第2款第7の1)	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	ねらい ○「理科」(グループ4)のねらい	
内容及び内容の取扱い (第2款第7の2・3)	(1)生物の進化 ア 生物の進化について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)ア】 イ 生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生物の進化についての特徴を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック1－細胞生物学 ・1.5 細胞の起源 ○トピック3－遺伝学 ・3.1 遺伝子 ・3.2 染色体 ○トピック5－進化と生物多様性 ・5.2 自然選択 ・5.3 生物多様性の分類 ・5.4 分岐分類学	シラバスの内容 ○トピック10－遺伝学と進化 ・10.1 減数分裂 ・10.2 遺伝 ・10.3 遺伝子プールと種分化
	(2)生命現象と物質【内容の取扱い(2)イ】 ア 生命現象と物質について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)ウ】 イ 生命現象と物質について、観察、実験などを通して探究し、生命現象と物質についての特徴を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック1－細胞生物学 ・1.3 膜構造 ○トピック2－分子生物学 ・2.4 タンパク質 ・2.5 酵素 ○SL・HL 共通項目のトピック ・A.3 刺激の知覚 ・B.1 微生物学：生物の産業利用	シラバスの内容 ○トピック7－核酸 ・7.1 DNAの構造と複製 ○トピック8－代謝、細胞呼吸、光合成 ・8.2 細胞呼吸 ・8.3 光合成 ○HL 発展項目のトピック ・D.5 ホルモンと代謝

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
	(3)遺伝情報の発現と発生 ア 遺伝情報の発現と発生について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)エ】 イ 遺伝情報の発現と発生について、観察、実験などを通して探究し、遺伝子発現の調節の特徴を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック3－遺伝学 ・3.5 遺伝子組み換えおよびバイオテクノロジー ○SL・HL 共通項目のトピック ・B.2 農業分野のバイオテクノロジー	シラバスの内容 ○トピック7－核酸 ・7.1 DNA の構造と複製 ・7.2 転写と遺伝子発現 ・7.3 翻訳 ○HL 発展項目のトピック ・B.4 医薬
	(4)生物の環境応答 ア 生物の環境応答について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)オ】 イ 生物の環境応答について、観察、実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○SL・HL 共通項目のトピック ・A.3 刺激の知覚	シラバスの内容 ○トピック9－植物生物学 ・9.1 植物の木部による輸送 ・9.2 植物の師部による輸送 ・9.3 植物の生長 ・9.4 植物の繁殖 ○HL 発展項目のトピック ・A.4 生得的行動と学習による行動 ・A.5 神経薬理学
	(5)生態と環境 ア 生態と環境について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。【内容の取扱い(2)カ】 イ 生態と環境について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物間の関係性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。	シラバスの内容 ○トピック4－生態学 ・4.1 種・群集・生態系 ・4.2 エネルギーの流れ ・4.3 炭素循環 ○SL・HL 共通項目のトピック ・C.1 種と群集 ・C.3 生態系への人類の影響	シラバスの内容 ○HL 発展項目のトピック ・C.5 個体群生態学 ・C.6 窒素とリンの循環
		「生物」の指導の方法・学習の方法 ○「理科」(グループ4)の実験スキル	

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目	
		標準レベル(SL)・上級レベル(HL)共通項目	上級レベル (HL) 発展項目
内容の取扱い (1) (第2款第7の3)	(1)内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。	「生物」の指導の方法・学習の方法 ○「理科」(グループ4)の実験スキル 評価目標	

学習指導要領「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「音楽Ⅲ」―IB「ミュージック」対応関係表

(0) 教科「芸術」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。 (2)創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 (3)生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	ねらい ○「芸術」のねらい
指導計画の作成と内容の取扱い (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、各科目における見方・考え方を働かせ、各科目の特質に応じた学習の充実を図ること。 (2)Ⅱを付した科目はそれぞれに対応するⅠを付した科目を履修した後に、Ⅲを付した科目はそれぞれに対応するⅡを付した科目を履修した後に履修させることを原則とすること。 (3)障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。	(参考) IB「音楽」教師用参考資料 ○探究を基盤とした指導 (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、学校の実態に応じて学校図書館を活用すること。また、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、表現及び鑑賞の学習の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように工夫すること。 (2)各科目の特質を踏まえ、学校や地域の実態に応じて、文化施設、社会教育施設、地域の文化財等の活用を図ったり、地域の人材の協力を求めたりすること。	(参考) DP: 原則から実践へ 教職員の配置 ○学校図書館司書 (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 学習の方法 ○リサーチスキル 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティを取り込む

(1)「音楽Ⅰ」－「ミュージック」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第1の1)	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2)自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3)主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	ねらい ○「芸術」のねらい ○「音楽」のねらい
内容 (第2款第1の2)	A 表現 (1)歌唱 (2)器楽	シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究 ・演奏者として探究する ○音楽の実験 ・演奏者として実験を行う ○音楽の発表 ・演奏者として発表する
	(3)創作	シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究 ・クリエイターとして探究する ○音楽の実験 ・クリエイターとして実験を行う ○音楽の発表 ・クリエイターとして発表する
	B 鑑賞 (1)鑑賞	シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究
	〔共通事項〕 (1)「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
内容の取扱い (第2款第1の3)	(1)内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、中学校音楽科との関連を十分に考慮し、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにするとともに、必要に応じて、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るものとする。 (2)内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)の指導については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」の(1)の指導については、ア及びイの各事項を適切に関連させて指導する。 (3)生徒の特性等を考慮し、内容の「A表現」の(3)のウについては(ア)、(イ)又は(ウ)のうち一つ以上を選択して扱うことができる。	—
	(4)内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫する。 (5)内容の「A表現」の指導に当たっては、生徒の特性等を考慮し、視唱と視奏及び読譜と記譜の指導を含めるものとする。 (6)内容の「A表現」の指導に当たっては、我が国の伝統的な歌唱及び和楽器を含めて扱うようにする。その際、内容の「B鑑賞」の(1)のア及びイの(イ)又は(ウ)との関連を図るよう配慮するものとする。 (7)内容の「A表現」の(3)の指導に当たっては、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成することを重視するとともに、作品を記録する方法を工夫させるものとする。 (8)内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。なお、内容の「B鑑賞」の指導に当たっては、曲や演奏について根拠をもって批評する活動などを取り入れるようにする。 (9)内容の「A表現」及び「B鑑賞」の教材については、学校や地域の実態等を考慮し、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽から幅広く扱うようにする。また、「B鑑賞」の教材については、アジア地域の諸民族の音楽を含めて扱うようにする。 (10)音楽活動を通して、それぞれの教材等に応じ、生徒が音や音楽と生活や社会との関わりを実感できるよう指導を工夫する。なお、適宜、自然音や環境音などについても取り扱い、音環境への関心を高めることができるよう指導を工夫する。 (11)自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、音楽に関する知的財産権について触れるようにする。また、こうした態度の形成が、音楽文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮する。	シラバスの内容 ○多様な音楽素材 ・地域的な文脈 ・グローバルな文脈 シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究 ・クリエイターとして探究する ・研究者として探究する ○音楽の発表 ・クリエイターとして発表する 内部評価 ○指導と「生徒本人が取り組んだものであること」の認証

(2)「音楽Ⅱ」－「ミュージック」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第2の1)	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2)個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。 (3)主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	ねらい ○「芸術」のねらい ○「音楽」のねらい
内容 (第2款第2の2)	A 表現 (1)歌唱 (2)器楽	シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究 ・演奏者として探究する ○音楽の実験 ・演奏者として実験を行う ○音楽の発表 ・演奏者として発表する
	(3)創作	シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究 ・クリエイターとして探究する ○音楽の実験 ・クリエイターとして実験を行う ○音楽の発表 ・クリエイターとして発表する
	B 鑑賞 (1)鑑賞	シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究
	〔共通事項〕 (1)「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次のお事項を身に付けることができるよう指導する。	シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
内容の取扱い (第2款第2の3)	(1)内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、必要に応じて、〔共通事項〕を要として相互の関連を図るものとする。 (2)生徒の特性、学校や地域の実態を考慮し、内容の「A表現」については(1)、(2)又は(3)のうち一つ以上を選択して扱うことができる。 (3)内容の「B鑑賞」の指導については、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を配当するものとする。	—
	(4)内容の取扱いに当たっては、「音楽I」の3の(2)から(11)までと同様に取り扱うものとする。	シラバスの内容 ○多様な音楽素材 ・地域的な文脈 ・グローバルな文脈 シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究 ・クリエイターとして探究する ・研究者として探究する ○音楽の発表 ・クリエイターとして発表する 内部評価 ○指導と「生徒本人が取り組んだものであること」の認証

(3)「音楽Ⅲ」－「ミュージック」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第3の1)	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2)音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。 (3)主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	ねらい ○「芸術」のねらい ○「音楽」のねらい
内容 (第2款第3の2)	A 表現 (1)歌唱 (2)器楽	「音楽」の学習 シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究 ・演奏者として探究する ○音楽の実験 ・演奏者として実験を行う ○音楽の発表 ・演奏者として発表する
	(3)創作	シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究 ・クリエイターとして探究する ○音楽の実験 ・クリエイターとして実験を行う ○音楽の発表 ・クリエイターとして発表する
	B 鑑賞 (1)鑑賞	シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究
	〔共通事項〕 (1)「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
内容の取扱い (第2款第3の3)	(1)生徒の特性、学校や地域の実態を考慮し、内容の「A表現」については(1)、(2)又は(3)のうち一つ以上を選択して扱うことができる。また、内容の「B鑑賞」の(1)のアについては、(ア)を扱うとともに、(イ)又は(ウ)のうち一つ以上を、イについては(ア)、(イ)、(ウ)又は(エ)のうち一つ以上を選択して扱うことができる。	—
	(2)内容の「A表現」及び「B鑑賞」の教材については、学校や地域の実態等を考慮し、我が国や郷土の伝統音楽を含めて扱うようにする。	シラバスの内容 ○多様な音楽素材 ・地域的な文脈
	(3)内容の取扱いに当たっては、「音楽Ⅰ」の3の(2)、(4)、(5)、(7)、(8)、(10)及び(11)、「音楽Ⅱ」の3の(1)及び(3)と同様に取り扱うものとする。	シラバスの内容 ○多様な音楽素材 ・地域的な文脈 ・グローバルな文脈 シラバスの構成 ○文脈に沿った音楽の探究 ・クリエイターとして探究する ・研究者として探究する ○音楽の発表 ・クリエイターとして発表する 内部評価 ○指導と「生徒本人が取り組んだものであること」の認証

学習指導要領「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」「美術Ⅲ」—IB「ヴィジュアル・アーツ」対応関係表

(0) 教科「芸術」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	ねらい ○「芸術」のねらい
指導計画の作成と内容の取扱い (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、各科目における見方・考え方を働かせ、各科目の特質に応じた学習の充実を図ること。 (2) Ⅱを付した科目はそれぞれに対応するⅠを付した科目を履修した後に、Ⅲを付した科目はそれぞれに対応するⅡを付した科目を履修した後に履修させることを原則とすること。 (3) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。	美術における「指導と学習のアプローチ」 ○美術における学習のアプローチ (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、学校の実態に応じて学校図書館を活用すること。また、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、表現及び鑑賞の学習の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように工夫すること。 (2) 各科目の特質を踏まえ、学校や地域の実態に応じて、文化施設、社会教育施設、地域の文化財等の活用を図ったり、地域の人材の協力を求めたりすること。	(参考) DP: 原則から実践へ 教職員の配置 ○学校図書館司書 (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 学習の方法 ○リサーチスキル 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティを取り込む

(1)「美術Ⅰ」－「ヴィジュアル・アーツ」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第4の1)	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	ねらい ○「芸術」のねらい ○美術のねらい
内容 (第2款第4の2)	A 表現 (1)絵画・彫刻 (2)デザイン (3)映像メディア表現	シラバスの内容 ○文脈に沿った美術 ・作品制作の実践 ○美術の方法 ・作品制作の実践
	B 鑑賞 (1)鑑賞	「美術」の学習 ○美術と国際的な視野 シラバスの概要 ○コアシラバス領域 ・文脈に沿った美術 シラバスの内容 ○文脈に沿った美術 ・キュレーションの実践 ○美術の方法 ・理論的実践 ○美術のコミュニケーション ・キュレーションの実践
	〔共通事項〕 (1)「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	シラバスの概要 ○コアシラバス領域 ・美術の方法

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
内容の取扱い (第2款第4の3)	(1)内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、中学校美術科との関連を十分に考慮し、「A表現」及び「B鑑賞」相互の関連を図り、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにする。 (2)生徒の特性、学校や地域の実態を考慮し、内容の「A表現」の(1)については絵画と彫刻のいずれかを選択したり一体的に扱ったりすることができる。また、(2)及び(3)についてはいずれかを選択して扱うことができる。その際、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現と、目的や機能などを考えた表現の学習が調和的に行えるようにする。 (6)内容の「A表現」の指導に当たっては、主題の生成から表現の確認及び完成に至る全過程を通して、自分のよさを発見し喜びを味わい、自己実現を果たしていく態度の形成を図るよう配慮するものとする。	—
	(3)内容の「B鑑賞」の指導については、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を配当するものとする。 (4)内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導を行い、各事項の実感的な理解を通して、生徒が造形を豊かに捉える多様な視点がもてるように配慮するものとする。 (5)内容の「A表現」の指導に当たっては、スケッチやデッサンなどにより観察力、思考力、描写力などが十分に高まるよう配慮するものとする。 (7)内容の「B鑑賞」の指導に当たっては、日本の美術も重視して扱うとともに、アジアの美術などについても扱うようにする。 (8)内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、芸術科美術の特質に応じて、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、〔共通事項〕に示す事項を視点に、アイデアスケッチなどで構想を練ったり、言葉などで考えを整理したりすることや、作品について批評し合う活動などを取り入れるようにする。 (9)創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、美術に関する知的財産権や肖像権などについて触れるようにする。また、こうした態度の形成が、美術文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮するものとする。 (10)事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などを徹底するものとする。	「美術」の学習 ○美術と学問的誠実性 ・資料の参照 美術における「指導と学習のアプローチ」 シラバスの概要 ○美術ジャーナル シラバスの内容

(2)「美術Ⅱ」－「ヴィジュアル・アーツ」

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第5の1)	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	ねらい ○「芸術」のねらい ○美術のねらい
内容 (第2款第5の2)	A 表現 (1)絵画・彫刻 (2)デザイン (3)映像メディア表現	シラバスの内容 ○文脈に沿った美術 ・作品制作の実践 ○美術の方法 ・作品制作の実践
	B 鑑賞 (1)鑑賞	「美術」の学習 ○美術と国際的な視野 シラバスの概要 ○コアシラバス領域 ・文脈に沿った美術 シラバスの内容 ○文脈に沿った美術 ・キュレーションの実践 ○美術の方法 ・理論的实践 ○美術のコミュニケーション ・キュレーションの実践
	〔共通事項〕 (1)「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	シラバスの概要 ○コアシラバス領域 ・美術の方法

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
内容の取扱い (第2款第5の3)	(1)内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、相互の関連を図り、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにする。 (2)生徒の特性、学校や地域の実態を考慮し、内容の「A表現」については(1)、(2)又は(3)のうち一つ以上を選択して扱うことができる。また、内容の「A表現」の(1)については、絵画と彫刻のいずれかを選択したり一体的に扱ったりすることができる。	—
	(3)内容の取扱いに当たっては、「美術Ⅰ」の3の(3)から(10)までと同様に取り扱うものとする。	「美術」の学習 ○美術と学問的誠実性 ・資料の参照 美術における「指導と学習のアプローチ」 シラバスの概要 ○美術ジャーナル シラバスの内容

(3)「美術Ⅲ」－「ヴィジュアル・アーツ」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第6の1)	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	ねらい ○「芸術」のねらい ○美術のねらい
内容 (第2款第6の2)	A 表現 (1)絵画・彫刻 (2)デザイン (3)映像メディア表現	シラバスの内容 ○文脈に沿った美術 ・作品制作の実践 ○美術の方法 ・作品制作の実践
	B 鑑賞 (1)鑑賞	「美術」の学習 ○美術と国際的な視野 シラバスの概要 ○コアシラバス領域 ・文脈に沿った美術 シラバスの内容 ○文脈に沿った美術 ・キュレーションの実践 ○美術の方法 ・理論的实践 ○美術のコミュニケーション ・キュレーションの実践
	〔共通事項〕 (1)「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	シラバスの概要 ○コアシラバス領域 ・美術の方法

内容の取扱い (第2款第6の3)	(1)生徒の特性、学校や地域の実態を考慮し、内容の「A表現」については(1)、(2)又は(3)のうち一つ以上を、「B鑑賞」の(1)についてはア又はイのうち一つ以上を選択して扱うことができる。また、内容の「A表現」の(1)については、絵画と彫刻のいずれかを選択したり一体的に扱ったりすることができる。	—
	(2)内容の取扱いに当たっては、「美術Ⅰ」の3の(3)から(10)まで、「美術Ⅱ」の3の(1)と同様に取り扱うものとする。	「美術」の学習 ○美術と学問的誠実性 ・資料の参照 美術における「指導と学習のアプローチ」 シラバスの概要 ○美術ジャーナル シラバスの内容

学習指導要領「外国語」―IB「ランゲージ B」対応関係表

(0) 教科「外国語」共通部分

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1款)	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	Aims Assessment objectives
指導計画の作成と内容の取扱い (第3款)	1 指導計画の作成に当たっては、小学校や中学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。 (1)単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法などの知識を五つの領域（「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」及び「論理・表現Ⅲ」においては三つの領域。3において同じ。）における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。 (8)言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や地理歴史科、理科など、他の教科等で学習した内容と関連付けるなどして、英語を用いて課題解決を図る力を育成する工夫をすること。 (9)障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。	Syllabus content ○Prescribed themes Approaches to the teaching and learning of language B ○Approaches to teaching ・ Teaching based on inquiry ○Approaches to learning ・ Self-management skills (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティを取り込む

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	(2)「英語コミュニケーションⅡ」は「英語コミュニケーションⅠ」を、「英語コミュニケーションⅢ」は「英語コミュニケーションⅡ」を履修した後に履修させることを原則とすること。 (3)「論理・表現Ⅱ」は「論理・表現Ⅰ」を、「論理・表現Ⅲ」は「論理・表現Ⅱ」を履修した後に履修させることを原則とすること。 (4)多様な生徒の実態に応じ、生徒の学習負担に配慮しながら、年次ごと及び科目ごとの目標を適切に定め、学校が定める卒業までの指導計画を通して十分に段階を踏みながら、外国語科の目標の実現を図るようにすること。 (5)実際に英語を使用して自分自身の考えを伝え合うなどの言語活動を行う際は、既習の語句や文構造、文法事項などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。 (6)生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。 (7)言語能力の向上を図る観点から、言語活動などにおいて国語科と連携を図り、指導の効果を高めるとともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気付かせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるよう工夫をすること。 (10) 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。	—

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとするものとする。 (1)単に英語を日本語に、又は日本語を英語に置き換えるような指導とならないよう、各科目の内容の（1）に示す言語材料については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して指導すること。また、生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。 (2)音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。 (3)文法事項の指導に当たっては、文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、過度に文法的な正しさのみを強調したり、用語や用法の区別などの指導が中心となったりしないよう配慮し、使用する場面や伝えようとする内容と関連付けて整理するなど、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように、効果的な指導を工夫すること。 (4)現代の標準的な英語によること。ただし、様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮すること。 (5)話すことや書くことの指導に当たっては、目的や場面、状況などに応じたやり取りや発表、文章などの具体例を示した上で、生徒がそれらを参考にしながら自分で表現できるよう留意すること。 (6)中学校で身に付けた使い方を基礎として、辞書を効果的に活用できるようにすること。	—
	(7)生徒が発話する機会を増やすとともに、他社と協働する力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、他社とコミュニケーションを行うことに課題がある生徒については、個々の生徒の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。 (8)生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心をより高めるとともに、英語による情報の発信に慣れさせるために、キーボードを使って英文を入力するなどの活動を効果的に取り入れることにより、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。 (9)各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりして、主体的、自律的に学習することができるようにすること。	Approaches to the teaching and learning of language B ○Approaches to teaching ・ Teaching focused on effective teamwork and collaboration ○Approaches to learning ・ Communication skills （参考）ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 学習の方法 ○リサーチスキル ○テクノロジーを効果的に活用する 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティを取り込む

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	3 教材については、次の事項に留意するものとする。 (1)教材は、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成するため、各科目の五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分に配慮した題材を取り上げること。その際、各科目の内容の(1)に示す文法事項などを中心とした構成とならないよう十分に留意し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定した上で、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すこと。 (2)英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。	Syllabus content ○Themes ・ Prescribed themes ・ Recommended topics ○Principles of course design

(1)「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」－「ランゲージB」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第1～3の1)	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域（以下この節において「五つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の（3）に示す資質・能力を育成する。 (1)聞くこと (2)読むこと (3)話すこと〔やり取り〕 (4)話すこと〔発表〕 (5)書くこと	Aims Assessment Objectives Assessment objectives in practice Paper1—writing、 Paper2—listening and reading
内容 (第2款第1～3の2)	〔知識及び技能〕 (1)英語の特徴やきまりに関する事項	—

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	〔思考力、判断力、表現力等〕 (2)情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 (3)言語活動及び言語の働きに関する事項	Approaches to the teaching and learning of language B ○Approaches to teaching ・ Teaching based on inquiry ○Approaches to learning ・ Thinking skills ・ Communication skills Nature of the subject ○Distinction between SL and HL Receptive skills、 Productive skills、 Interactive skills Syllabus content ○Texts ・ Personal texts ・ Professional texts ・ Mass media texts
内容の取扱い (第2款第1～3の3)	(1)コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための総合的な指導を踏まえ、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、総合的に指導するものとする。 (2)中学校における学習との接続のため、既習の語句や文構造、文法事項などの学習内容を繰り返したり、特にこの科目の学習の初期の段階においては中学校における基礎的な学習内容を整理したりして指導し、定着を図るよう配慮するものとする。(英語コミュニケーションⅠのみ)	Nature of the subject ○Language acquisition ○Prior learning

(2)「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」－「ランゲージB」

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第2款第4～6の1)	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの三つの領域（以下この節において「三つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の（3）に示す資質・能力を育成する。 (1)話すこと〔やり取り〕 (2)話すこと〔発表〕 (3)書くこと	Aims Assessment Objectives Assessment objectives in practice Paper1—writing
内容 (第2款第4～6の2)	〔知識及び技能〕 (1)英語の特徴やきまりに関する事項	External assessment ○External Assessment criteria—SL/HL ・ Paper 1: Productive skills—writing
	〔思考力、判断力、表現力等〕 (2)情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 (3)言語活動及び言語の働きに関する事項	Approaches to the teaching and learning of language B ○Approaches to teaching ・ Teaching based on inquiry ○Approaches to learning ・ Thinking skills ・ Communication skills Nature of the subject ○Distinction between SL and HL Receptive skills、 Productive skills、 Interactive skills Syllabus content ○Texts ・ Personal texts ・ Professional texts ・ Mass media texts

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
内容の取扱い (第2款第4～6の3)	コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図るように指導するものとする。	Approaches to the teaching and learning of language B ○Approaches to learning ・ Communication skills

学習指導要領「総合的な探究の時間」—IB「セオリー・オブ・ナレッジ」対応関係表

	高等学校学習指導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
目標 (第1)	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。	ねらい
各学校において定める目標及び内容 (第2)	1 目標 各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な探究の時間の目標を定める。 2 内容 各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な探究の時間の内容を定める。	—
	3 各学校において定める目標及び内容の取扱い 各学校において定める目標及び内容の設定に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)各学校において定める目標については、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な探究の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。 (2)各学校において定める目標及び内容については、他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ、他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視すること。 (3)各学校において定める目標及びないようについては、地域や社会との関わりを重視すること。 (4)各学校において定める内容については、目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示すこと。 (5)目標を実現するにふさわしい探究課題については、地域や学校の実態、生徒の特性等に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の進路に関する課題などを踏まえて設定すること。 (6)探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、次の事項に配慮すること。 (7)目標を実現するにふさわしい探究課題及び探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、教科・科目等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ、活用されるものとなるよう配慮すること。	TOK の学習 TOK 評価目標 「知識に関する問い」 ○コアテーマ：知識と知る人 (参考) TOK 教師用参考資料 TOK と ATL スキル ・思考スキル ・コミュニケーションスキル (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○DPを支える教育原理 ○地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導 ○全ての学習者のニーズを満すために差別化した指導

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
指導計画の作成と内容の取扱い (第3)	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)年間や、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生徒や学校、地域の実態等に応じて、生徒が探究の見方・考え方を働かせ、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること。 (2)全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示すこと。 (3)目標を実現するにふさわしい探究課題を設定するに当たっては、生徒の多様な課題に対する意識を生かすことができるよう配慮すること。 (4)他教科等及び総合的な探究の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。その際、言語能力、情報活用能力など全ての学習の基盤となる資質・能力を重視すること。 (5)他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動を行うこと。 (6)各学校における総合的な探究の時間の名称については、各学校において適切に定めること。 (7)障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。 (8)総合学科においては、総合的な探究の時間の学習活動として、原則として生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について知識や技能の深化、総合化を図る学習活動を含むこと。	TOK の学習 (参考) TOK 教師用参考資料 TOK の指導と学習のアプローチ ○チームワークと協働 ○TOK と ATL スキル DP 全体にわたるつながり ○DP のカリキュラム全体にわたる TOK (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 指導の方法 ○全ての学習者のニーズを満たすために差別化した指導

	高等学校学習導要領関連内容	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム記載項目
	2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)第2の各学校において定める目標及び内容に基づき、生徒の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと。 (2)課題の設定においては、生徒が自分で課題を発見する過程を重視すること。 (3)第2の3の(6)のウにおける両方の視点を踏まえた学習を行う際には、これらの視点を生徒が自覚し、内省的に捉えられるよう配慮すること。 (4)探究の過程においては、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。その際、例えば、比較する、分類する、関連付けるなどの考えるための技法が自在に活用されるようにすること。 (5)探究の過程においては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるよう工夫すること。その際、情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮すること。 (6)自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。 (7)体験活動については、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえ、探究の過程に適切に位置付けること。 (8)グループ学習や個人研究などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ、全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。 (9)学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。 (10)職業や自己の進路に関する学習を行う際には、探究に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の在り方生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。	(参考) TOK 教師用参考資料 TOK の指導と学習のアプローチ ○チームワークと協働 ○TOK と ATL スキル ・振り返りのための問い ・思考スキル ・コミュニケーションスキル ・社会性スキル ・リサーチスキル (参考) ディプロマプログラムにおける「指導」と「学習」 学習の方法 指導の方法 ○探究を基盤とした指導 ○DP のすべての教師が「言語の教師」である 教育的リーダーシップ ○協力者を求める：より広範な学校コミュニティを取り込む (参考) DP：原則から実践へ 指導と学習 ○文脈における指導と学習